

あかまえ うしこざわ
赤前Ⅰ牛子沢遺跡

—平成4年度発掘調査報告書—

1995.2

岩手県宮古市教育委員会

赤前 I 牛子沢遺跡

—平成4年度発掘調査報告書—



(外面)



(内面)

赤前 I 牛子沢遺跡出土 陶磁器片

1995.2

岩手県宮古市教育委員会

The Miyako Board of Education

Miyako, Iwate, Japan

序 文

宮古市内には、これまでの分布調査や文化財パトロールなどの成果により現在のところ443ヶ所もの遺跡が確認されております。これらの遺跡は、私たちの先人たちから守り受けつがれてきたものです。そして、これらの貴重な文化遺産である遺跡を保存し後世にさらに伝えていくことは私たちに課せられた責務であると思っております。

近年、各種開発事業に伴うこれら遺跡の発掘に先だつ事前協議の件数も年々増加してきました。宮古市教育委員会では、このような事前協議をできるかぎり多く行い工事の計画変更や工法の変更などにより遺跡の保護ができないものかと、開発側への理解と協力を求めるかぎり工事などによる遺跡の破壊を最小限にとどめるよう努めてきました。しかしながら、やむを得ず遺跡の破壊が回避できない場合については、宮古市教育委員会が主体となり発掘調査を実施してきました。

本書は、平成4年（1992）に実施した個人住宅建築工事に先だつ赤前I牛子沢遺跡の発掘調査の成果をとりまとめたものでございます。当遺跡は「赤前遺跡群」を構成している遺跡のひとつです。当遺跡群では今までに数箇所が発掘調査がなされており、また、現在は集落環境整備事業として道路建設などの事業に先だつ発掘調査も平成5年度から継続して実施されており、数多くの成果があげられています。これらについてはすべての発掘調査が終了予定の平成8年度に1冊の調査報告書として刊行する予定でございます。

さて、赤前I牛子沢遺跡の発掘調査においては、土壌跡などの遺構や縄文時代の中期を主体とした遺物包含層のほか、宮古地方ではほとんどみつからない12から13世紀代に所属されると思われる青磁片、陶器片が1片ずつでありますが発見され、貴重な出土例となりました。これは、当遺跡のすぐ北側に存在する南北朝時代に築城されたといわれている赤前館跡との関連を想像させるものと考えられます。

最後になりましたが、発掘調査および本書の作成にあたりご協力をいただきました関係各位に対し深く感謝申し上げます。

平成7年2月

宮古市教育委員会

教育長 佐藤 勇 逸

例 言

- 1 本書は岩手県宮古市大字赤前第3地割字牛子沢地内に所在する赤前Ⅰ牛子沢遺跡の平成4年度に実施した緊急発掘調査の報告書である。
- 2 発掘調査の主体は宮古市教育委員会（教育長 佐藤勇逸）で、発掘調査、資料整理、本書の執筆は鎌田が担当し、竹下、高橋、阿部、橋本、工藤、三浦がこれを補佐した。
- 3 調査座標は任意に設定したもので、高さは標高値をそのまま使用した。
- 4 発掘調査及び本書の作成に際しては次の方々のご指導、ご教授を頂いた。記して感謝申し上げます。（順不同、敬称略）

| | |
|--------------------|-------------------------|
| 相原 康二（岩手県教育委員会文化課） | 高橋與右衛門（（財）岩手県埋蔵文化財センター） |
| 小田野哲憲（ ” ） | 八重樫忠郎（平泉町教育委員会） |
| 熊谷 常正（ ” ） | 岸 昌一（宮古市史編纂室） |
| 佐藤 嘉広（ ” ） | 斎藤 英樹（宮古市文化財保護審議委員） |

- 5 本文中における引用文献は次のとおり略記した。（いずれも宮古市教育委員会刊行）
1983～86 『宮古市遺跡分布調査報告書 1～4』 武田将男→『分布調査 1～4』
1986 『宮古市遺跡分布図 昭和63年度版』 武田将男→『分布図 86』
1984 『宮古市赤前遺跡群 第1次・2次発掘調査報告書』 武田将男→『赤前報文 84』
1985 『金浜館跡発掘調査報告書 1985』 武田将男→『金浜館 85』
1992 『金浜Ⅰ遺跡－昭和58年度発掘調査報告書－・大付遺跡－平成2年度発掘調査報告書』
鎌田祐二他→『金浜Ⅰ・大付 92』
1991 『弘川Ⅰ遺跡－平成2年度発掘調査報告書－』 朴澤正耕他→『弘川Ⅰ 92』
1989 『高根遺跡－昭和63年度発掘調査報告書－』 鎌田祐二→『高根 89』

目 次

| | |
|---------------|------|
| 序 文 | |
| 例 言 | |
| 目 次 | |
| I 調査経過 | 1 |
| 1 調査に至る経過 | 1 |
| 2 調査要旨 | 1 |
| 3 調査体制 | 2 |
| II 遺跡をとりまく環境 | 9 |
| 1 遺跡の位置と立地 | 9 |
| 2 赤前遺跡群と周辺の遺跡 | 9・10 |
| III 調査内容 | 13 |
| 1 調査の方法 | 13 |
| 2 調査区の礫の状況 | 13 |
| 3 基本層序 | 18 |
| 4 検出した遺構・遺物 | 20 |
| 5 遺構外出土遺物 | 29 |
| IV 調査のまとめ | 32 |
| 1 遺構について | 32 |
| 2 遺物について | 32 |
| 3 おわりに | 32 |

挿 図 目 次

| | | |
|------|--------------|----|
| 第1図 | 位置図 | 3 |
| 第2図 | 周辺の遺跡 | 4 |
| 第3図 | 地形分類図 | 7 |
| 第4図 | 赤前遺跡群とその周辺遺跡 | 8 |
| 第5図 | 遺跡周辺地形図 | 11 |
| 第6図 | 調査区全体図① | 13 |
| 第7図 | 調査区全体図② | 14 |
| 第8図 | 調査区断面① | 15 |
| 第9図 | 調査区断面② | 16 |
| 第10図 | 調査区Ⅳ区の集礫断面図 | 17 |
| 第11図 | 検出した土壌跡① | 20 |
| 第12図 | 検出した土壌跡② | 21 |
| 第13図 | 土壌跡断面図 | 22 |
| 第14図 | 出土遺物・土器 | 28 |
| 第15図 | 出土遺物・石器① | 29 |
| 第16図 | 出土遺物・石器② | 30 |
| 第17図 | 出土遺物・陶磁器 | 31 |

写真図版目次

| | |
|-------|----------------------------|
| 巻頭カラー | 赤前Ⅰ牛子沢遺跡出土陶磁器片（表面）、（裏面） |
| 第1図版 | 赤前Ⅰ牛子沢遺跡景観、同調査区景観 |
| 第2図版 | 調査区Ⅰ区の土壌跡、調査区Ⅱ区の礫の状況 |
| 第3図版 | 調査区Ⅳ区南壁断面、調査区Ⅳ区内の第35号土壌跡断面 |
| 第4図版 | 調査区Ⅳ区の集礫の状況①、同② |
| 第5図版 | 調査区Ⅳ区の集礫断面①、同② |
| 第6図版 | 第18号土壌跡、第13号土壌跡 |
| 第7図版 | 第9号土壌跡、第27号土壌跡 |
| 第8図版 | 第1号土壌跡、調査区Ⅱ区深掘トレンチ |
| 第9図版 | 出土遺物・土器①、同② |
| 第10図版 | 出土遺物・土器③、出土遺物・石器（第16図） |
| 第11図版 | 出土遺物・石器（第15図）、同裏面 |
| 第12図版 | 出土遺物・鉄滓、出土遺物・石器（第16図） |

I 調査経過

1 調査に至る経過

赤前I牛子沢遺跡は宮古市の遺跡コードL G 54-1072として登録されている周知の遺跡である。当遺跡周辺には、当遺跡を含め6遺跡が連続して所在しており「赤前遺跡群」として把握されており、何箇所かで発掘調査が実施されている。昭和54年（1979）には市立赤前小学校建設、昭和57年（1982）には宅地造成に先だつ調査がなされており、その成果として『赤前報文84』が刊行されている。また、未報告ながら宅地造成や個人住宅建築に先だつ本調査、試掘などが行なわれている。

周知の遺跡
赤前遺跡群

さて、当遺跡は個人住宅建築に先だつ緊急の調査で、平成3年（1991）9月に提出された農地転用許可申請に端を発したものである。宮古市教育委員会は申請地が周知の遺跡の範囲内であることを申請者に伝えるとともに、その取り扱いについての事前協議を開始した。

事前協議

事前協議の結果、申請地内のうち住宅及び車庫の建築によって破壊をまぬがれない区域を調査の対象として、翌年の平成4年（1992）に発掘調査を実施することとし、宮古市教育委員会では必要経費を予算計上した。

平成4年5月に申請者より提出された埋蔵文化財発掘届出書を受けて、6月1日から8月3日まで発掘調査を実施した。

発掘調査後の資料整理、調査報告書の刊行は平成5年度から6年度にかけて断続的に行った。

2 調査要旨

調査地点 宮古市赤前牛子沢3地割69番地

遺跡名 赤前I牛子沢遺跡

調査原因 個人住宅建築に先だつ緊急調査

調査面積 農地転用許可申請面積630㎡のうち住宅、車庫建築分の300㎡を調査し残りは庭などとして現状保存とした。

調査期間 〈発掘調査〉平成4年6月1日～平成4年8月3日

〈整理作業〉平成6年11月1日～平成7年3月31日

検出遺構 直径1m内外の円形から楕円形状の土壇跡35基を検出したが、一部縄文土器が出土しているが、大部分のものは浅く、伴出遺物もないためその所属時期などは不明であった。

土壇跡

また、調査区の南側には狭い範囲ながら縄文時代中期を主体とする土器などの遺物を包含する層を検出した。更に、調査区の南側部分には砂層の堆積がみられ、調査区外の南に流れる沢から土砂が流出しているのが判明した。

縄文時代中期

検出遺物 土壇跡からや遺物包含層などから縄文時代前期、中期の土器、石器が出土してい

陶磁器類

る。また、12末～13世紀代のものと思われる青磁片、陶器片が出土しており当遺跡の北側に所在する赤前館跡との関連が注目される。その他、数点の鉄滓、棒状の鉄製品、近世～現代の陶磁器片が出土しているが、全体的には遺物の量は少ない。

3 調査体制

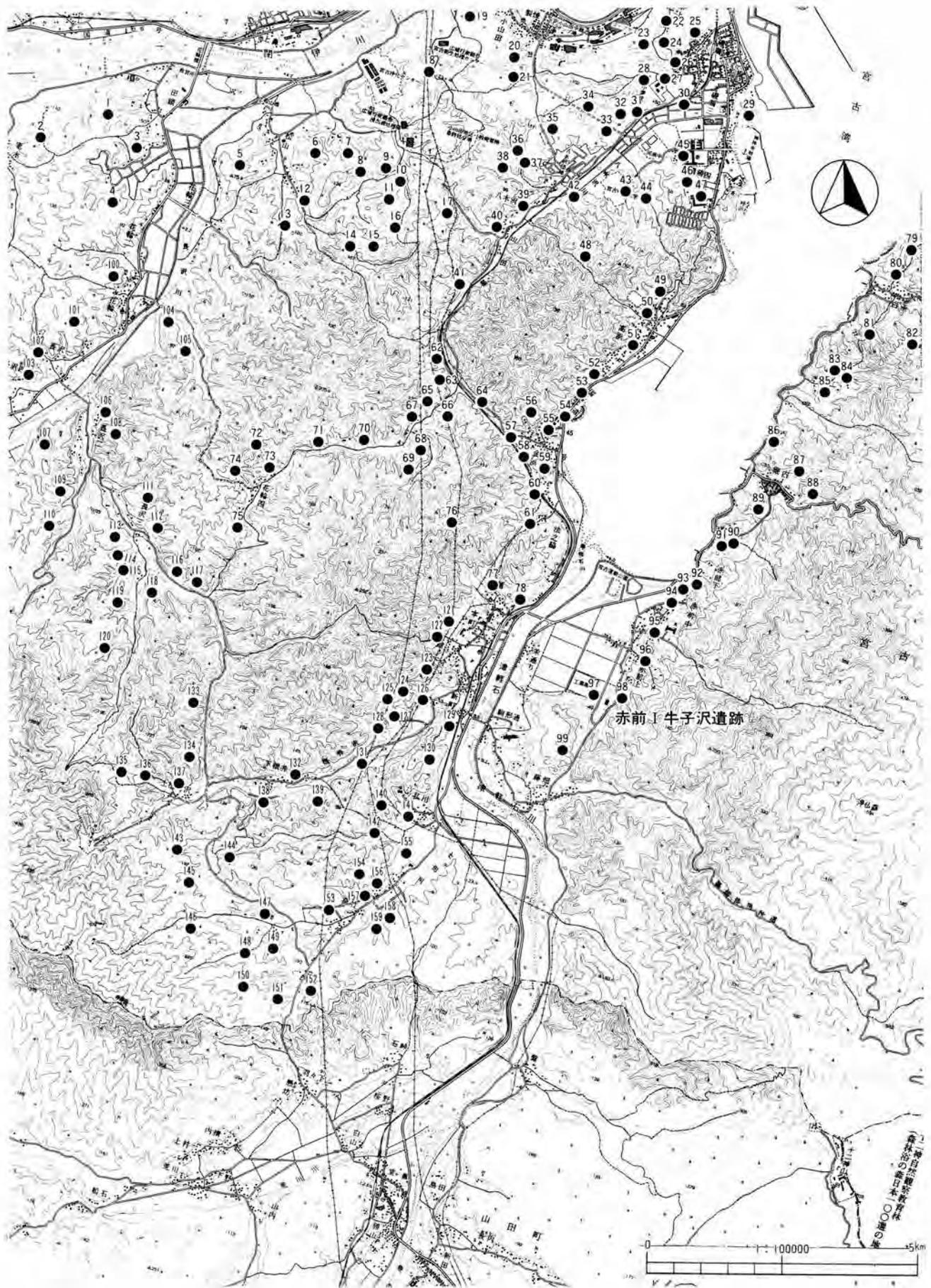
発掘調査、整理作業の体制は次の通りである。

| | |
|------|-------------------------------------|
| 調査主体 | 宮古市教育委員会（教育長 佐藤勇逸） |
| 調査総括 | 岩田 善弘 宮古市教育委員会社会教育課長（平成4年、5年度） |
| 〃 | 浦野 光廣 宮古市教育委員会社会教育課長（平成6年度～） |
| 事務担当 | 山崎 吉章 宮古市教育委員会社会教育係長（平成4年、5年度） |
| 〃 | 田鎖 春雄 宮古市教育委員会社会教育係長（平成6年度～） |
| 〃 | 坂下 昇 宮古市教育委員会庶務主査兼社会教育主事 |
| 調査員 | 竹下 将男 宮古市教育委員会社会教育係主任（平成6年度～） |
| 〃 | 高橋 憲太郎 宮古市教育委員会社会教育係主任 |
| 〃 | 鎌田 祐二 宮古市教育委員会社会教育係主任（主担当） |
| 〃 | 橋本 晃一 宮古市教育委員会社会教育係主事（平成5年度～） |
| 〃 | 三浦 千秋 宮古市教育委員会社会教育係主事（平成6年度～） |
| 〃 | 阿部 豊 宮古市教育委員会社会教育係埋蔵文化財調査員 |
| 〃 | 工藤 剛司 宮古市教育委員会社会教育係埋蔵文化財調査員（平成5年度～） |

発掘調査及び整理作業に際しては、次の各位から多大のご協力を頂いた。（敬称略）

| | |
|--------|--|
| 《地権者》 | 宇都宮淳厚 |
| 《発掘調査》 | 木村博、今津東一、刈屋昭三、斎藤貞子、藤谷晶子、菅原テルミ、北村忠治、古館友三、佐々木健、佐伯裕則、吉田昭、大越貞蔵、菊池清八、前川友宏 |
| 《整理作業》 | 館崎礼子、味噌作宣子 |

また、発掘調査期間中には現地にて宮古市立第一中学校生徒による発掘体験学習会を実施している。



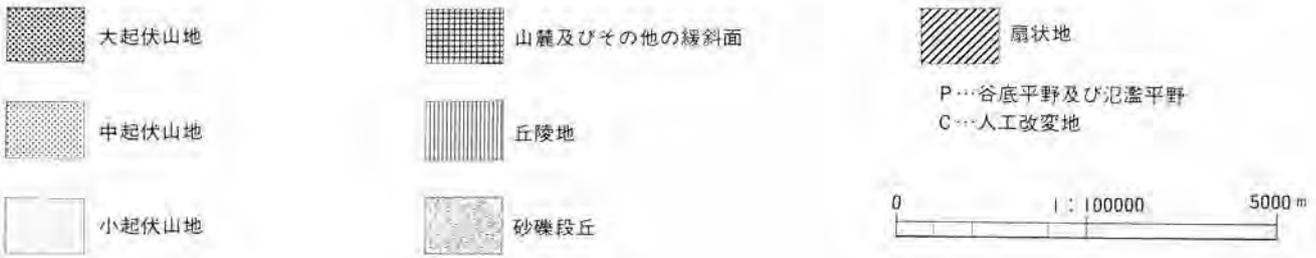
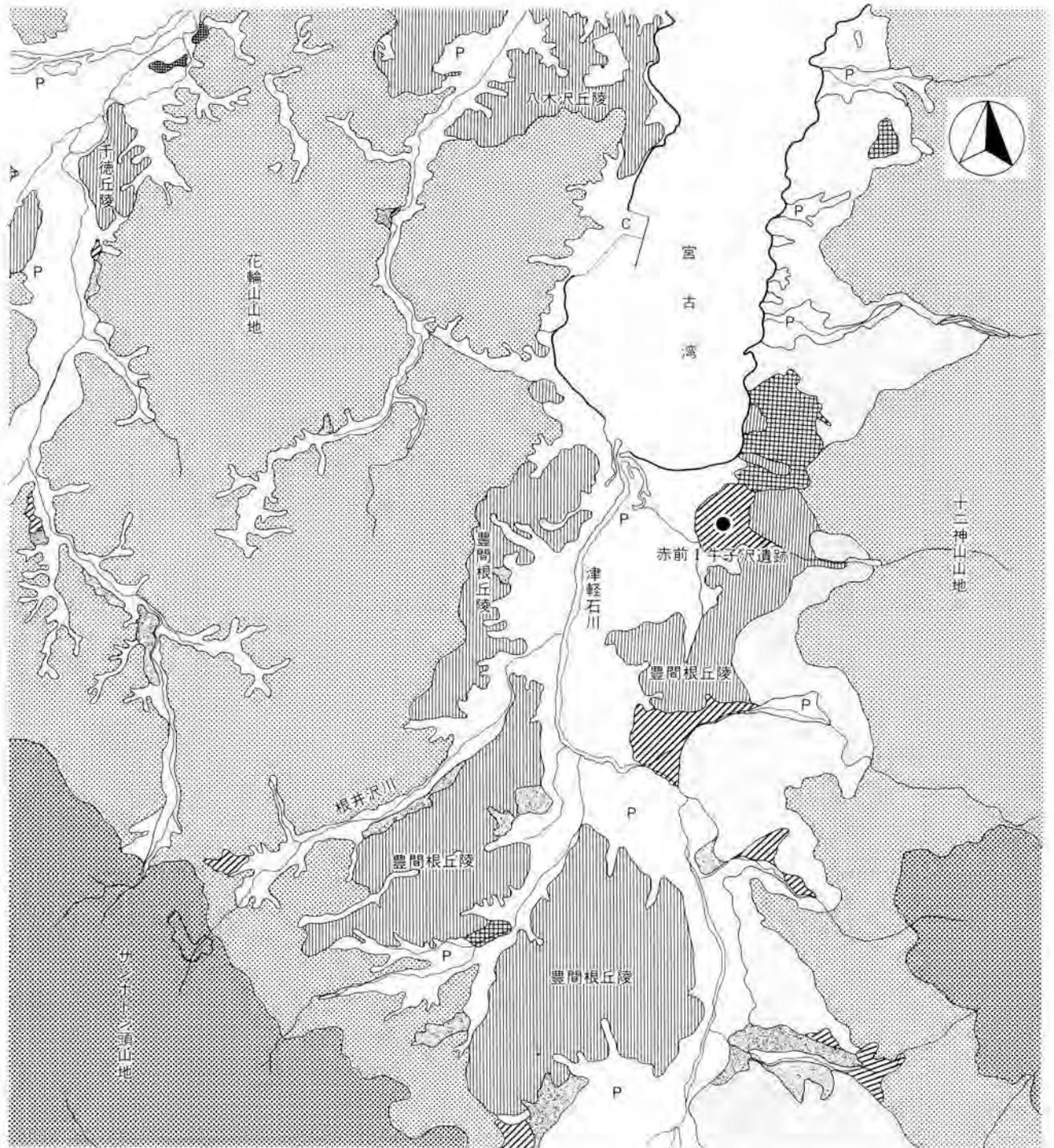
第2図 周辺の遺跡

| No. | 遺跡コード | 遺跡名 | よみがな | 遺構・遺物 | 所在地 |
|-----|-------------|----------|------------|-------------------|----------------------|
| 1 | L G 32-2333 | 田鎖館 | タクサリタテ | 主郭 副郭 | 田鎖第1地割三合並 |
| 2 | L G 23-2248 | 老木館 | ロウキタテ | 主郭 帯郭 | 田鎖第1地割三合並 |
| 3 | L G 32-2358 | 田鎖遺跡 | タクサリ | 縄文土器 土師器 須恵器 | 田鎖第2地割齋藤師 |
| 4 | L G 32-2398 | 枋沢遺跡 | ハカマザワ | 縄文土器 土師器 須恵器 | 田鎖第3地割枋沢 |
| 5 | L G 33-2086 | 松山館 | マツヤマタテ | 蔵手刀 須恵器 主郭 | 松山第13地割大久保沢 田鎖第5地割磯内 |
| 6 | L G 33-2162 | 松山下谷地遺跡 | マツヤマシモヤチ | 縄文土器 土師器 須恵器 鉄滓 | 松山第8地割下谷地 |
| 7 | L G 33-2166 | 大地田沢遺跡 | オオチタザワ | 竪穴住居 | 松山第7地割大地田沢 |
| 8 | L G 33-2197 | 隠里Ⅰ遺跡 | カクレザトⅠ | 縄文土器 須恵器 鉄滓 | 八木沢第3地割中村 |
| 9 | L G 33-2189 | 隠里Ⅱ遺跡 | カクレザトⅡ | 縄文土器 土師器 鉄滓 | 八木沢第3地割中村 |
| 10 | L G 33-2292 | 隠里Ⅲ遺跡 | カクレザトⅢ | 縄文土器 土師器 須恵器 | 八木沢第3地割中村 |
| 11 | L G 43-0200 | 隠里Ⅳ遺跡 | カクレザトⅣ | 縄文土器 土師器 須恵器 | 八木沢第3地割中村 |
| 12 | L G 43-0102 | 七所沢Ⅰ遺跡 | シチショザワⅠ | 土師器 | 松山第10地割七所沢 |
| 13 | L G 43-0122 | 七所沢Ⅱ遺跡 | シチショザワⅡ | 縄文土器 | 松山第10地割七所沢 |
| 14 | L G 43-0138 | 隠里Ⅶ遺跡 | カクレザトⅦ | 土師器 鉄滓 羽口 | 八木沢第3地割中村 |
| 15 | L G 43-0230 | 隠里Ⅵ遺跡 | カクレザトⅥ | 土師器 鉄滓 羽口 | 八木沢第3地割中村 |
| 16 | L G 43-0212 | 隠里Ⅴ遺跡 | カクレザトⅤ | 土師器 鉄滓 | 八木沢第3地割中村 |
| 17 | L G 43-0205 | 八木沢Ⅱ遺跡 | ヤギサワⅡ | 縄文土器 | 八木沢第3地割中村 |
| 18 | L G 33-1237 | 岩ヶ沢遺跡 | イワガサワ | 縄文土器 土師器 須恵器 | 小山田第2地割岩ヶ沢 |
| 19 | L G 32-1235 | 寺沢Ⅱ遺跡 | テラザワⅡ | 土器 | 根市第6地割 |
| 20 | L F 33-1370 | 小山田館 | コヤマダタテ | 主郭 帯郭 | 小山田第5地割和山大畑 |
| 21 | G 33-1380 | 小山田Ⅰ遺跡 | コヤマダⅠ | 土師器 鉄滓 | 小山田第5地割和山大畑 |
| 22 | L G 34-1045 | 藤原上町田遺跡 | フジワラカミマチⅢ | 縄文土器 土師器 | 藤原上町 |
| 23 | L G 34-1073 | 小沢田貝塚 | コサワタカイヅカ | 縄文土器 土師器 須恵器 貝層 | 磯鷲第3地割上村 |
| 24 | L G 34-1075 | 早坂遺跡 | ハヤサカ | 縄文土器 土師器 須恵器 貝層 | 磯鷲第3地割早坂 |
| 25 | L G 34-1047 | 磯鷲石崎遺跡 | ソケイイシザキ | 縄文土器 土師器 | 磯鷲第1地割石崎 |
| 26 | L G 34-1085 | 上村貝塚 | ウムラカイヅカ | 竪穴住居 貝層 遺物包含層 | 磯鷲第3地割上村 |
| 27 | L G 34-1084 | 上村Ⅱ遺跡 | ウムラⅡ | 縄文土器 土師器 | 磯鷲第3地割上村 |
| 28 | L G 34-2013 | 磯鷲竹洞Ⅰ遺跡 | ソケイタケホラⅠ | 縄文土器 土師器 | 磯鷲第6地割竹洞 第3地割村上 |
| 29 | L G 34-2123 | 磯鷲沖遺跡 | ソケイオキ | 台場? | 磯鷲第4地割沖 |
| 30 | L G 34-2007 | 磯鷲蝦夷森貝塚 | エゾモリカイヅカ | 縄文土器 人骨 骨角器 土師器 | 磯鷲第3地割上村 第6地割竹洞 |
| 31 | L G 34-1091 | 上村Ⅲ遺跡 | ウムラⅢ | 縄文土器 土師器 | 磯鷲第3地割上村 |
| 32 | L G 34-2001 | 上村Ⅳ遺跡 | ウムラⅣ | 縄文土器 土師器 | 磯鷲第3地割上村 |
| 33 | L G 33-2349 | 磯鷲竹洞Ⅱ遺跡 | ソケイタケホラⅡ | 縄文土器 土師器 | 磯鷲第6地割竹洞 |
| 34 | L G 33-2306 | 小山田Ⅱ遺跡 | コヤマダⅡ | 土師器 | 小山田第6地割牛ヶ鼻 |
| 35 | L G 33-2343 | 猿楽峠遺跡 | サルカクトウケ | 土師器 | 八木沢第1地割太田前 |
| 36 | L G 33-2351 | 守ノ越Ⅳ遺跡 | モリノコシⅣ | 縄文土器 土師器 | 八木沢第2地割守ノ越 |
| 37 | L G 33-2372 | 守ノ越Ⅲ遺跡 | モリノコシⅢ | 縄文土器 土師器 | 八木沢第2地割守ノ越 |
| 38 | L G 33-2288 | 守ノ越Ⅱ遺跡 | モリノコシⅡ | 縄文土器 | 八木沢第2地割守ノ越 |
| 39 | L G 43-0301 | 守ノ越Ⅰ遺跡 | モリノコシⅠ | 縄文土器 | 八木沢第2地割守ノ越 |
| 40 | L G 43-0330 | 白山下遺跡 | ハクサンシタ | 縄文土器 | 八木沢第3地割八木沢 |
| 41 | L G 43-1206 | 八木沢駒込Ⅰ遺跡 | ヤギサワコマゴメⅠ | 縄文土器 土師器 鉄滓 | 八木沢第8地割駒込 |
| 42 | L G 43-0312 | 八木沢新館 | ヤギサワシンダテ | 主郭 帯郭 | 八木沢第3地割 八木沢第2地割守ノ越 |
| 43 | L G 34-2091 | 島田遺跡 | シマダ | 竪穴住居 溝 自然遺物 | 八木沢第4地割島田 |
| 44 | L G 44-0003 | 磯鷲中谷地遺跡 | ソケイナカヤチ | 土師器 須恵器 | 磯鷲第8地割中谷地 |
| 45 | L G 34-2155 | 磯鷲館山遺跡 | ソケイタテヤマ | 竪穴住居 製鉄遺構 貝層 建物跡 | 磯鷲第11地割岸ノ前 |
| 46 | L G 34-2076 | 仏沢Ⅰ遺跡 | ホトケザワⅠ | 土師器 | 磯鷲第12地割仏沢 |
| 47 | L G 34-2087 | 仏沢Ⅱ遺跡 | ホトケザワⅡ | 縄文土器 土師器 竪穴住居 鉄滓 | 磯鷲第12地割仏沢 |
| 48 | L G 43-0357 | 八木沢古館 | ヤギサワフルダテ | 主郭 帯郭 | 八木沢第5地割寺ヶ沢 第6地割中田 |
| 49 | L G 44-0095 | 坂ノ下遺跡 | サカノシタ | 縄文土器 | 高浜第1地割坂ノ下 |
| 50 | L G 44-1013 | 今ヶ洞遺跡 | イマガホラ | 縄文土器 | 高浜第2地割今ヶ洞 |
| 51 | L G 44-1032 | 熊野遺跡 | クマノ | 縄文土器 | 高浜第3地割熊野 |
| 52 | L G 43-1369 | 高浜Ⅳ横須賀遺跡 | タカハマⅣヨコスカ | 縄文土器 | 高浜第5地割大沢 第4地割横須賀 |
| 53 | L G 43-1398 | 高浜Ⅴ下地神遺跡 | タカハマⅤシモチカミ | 縄文土器 | 高浜第6地割下地神 地神 |
| 54 | L G 43-2316 | 高浜Ⅵ地神遺跡 | タカハマⅥチノカミ | 縄文土器 | 高浜第6地割下地神 地神 |
| 55 | L G 43-2335 | 金浜館 | カネハマタテ | 土壇 主郭 空堀 天目茶碗 青磁皿 | 金浜第1地割西角地 堤ヶ沢 |
| 56 | L G 43-2314 | 金浜堤ヶ沢遺跡 | カネハマツツミカサワ | 鉄滓 | 金浜第1地割堤ヶ沢 西角地 |
| 57 | L G 43-2342 | 金浜Ⅰ遺跡 | カネハマⅠ | 縄文土器 | 金浜第2地割古館 第3地割妻ノ上 |
| 58 | L G 43-2363 | 金浜Ⅱ遺跡 | カネハマⅡ | 土師器 | 金浜第2地割古館 第3地割妻ノ上 |
| 59 | L G 43-2384 | 金浜Ⅲ遺跡 | カネハマⅢ | 縄文土器 土師器 | 金浜第4地割鶴ヶ崎 |
| 60 | L G 43-2394 | 金浜Ⅳ遺跡 | カネハマⅣ | 縄文土器 | 金浜第4地割鶴ヶ崎 |
| 61 | L G 53-0313 | 金浜Ⅴ遺跡 | カネハマⅤ | 縄文土器 鉄滓 | 金浜第5地割馬越 第7地割船川原 |
| 62 | L G 43-1244 | 八木沢駒込Ⅱ遺跡 | ヤギサワコマゴメⅡ | 縄文土器 | 八木沢第8地割駒込 |
| 63 | L G 43-1257 | 八木沢Ⅲ野来遺跡 | ヤギサワⅢノライ | 縄文土器 | 八木沢第8地割駒込 |
| 64 | L G 43-2209 | 賽の神遺跡 | サイノカミ | 縄文土器 | 金浜第1地割西角地 |
| 65 | L G 43-2204 | 下大谷地Ⅱ遺跡 | シモオオヤチⅡ | 縄文土器 | 八木沢第9地割大谷地 |
| 66 | L G 43-2206 | 下大谷地Ⅰ遺跡 | シモオオヤチⅠ | 縄文土器 | 八木沢第9地割大谷地 |
| 67 | L G 43-2222 | 下大谷地Ⅲ遺跡 | シモオオヤチⅢ | 縄文土器 鉄滓 | 八木沢第9地割大谷地 |
| 68 | L G 43-2233 | 下大谷地Ⅳ遺跡 | シモオオヤチⅣ | 縄文土器 | 八木沢第9地割大谷地 |
| 69 | L G 43-2264 | 下大谷地Ⅴ遺跡 | シモオオヤチⅤ | 鉄滓 | 八木沢第9地割大谷地 |
| 70 | L G 43-2147 | 下大谷地Ⅵ遺跡 | シモオオヤチⅥ | 縄文土器 鉄滓 | 八木沢第9地割大谷地 |
| 71 | L G 43-2143 | 大谷地Ⅰ遺跡 | オオヤチⅠ | 縄文土器 | 花輪第18地割大谷地 |
| 72 | L G 43-2068 | 大谷地Ⅲ遺跡 | オオヤチⅢ | 鉄滓 羽口 | 花輪第18地割大谷地 |
| 73 | L G 43-2170 | 大谷地Ⅱ遺跡 | オオヤチⅡ | 縄文土器 鉄滓 | 花輪第18地割大谷地 |
| 74 | L G 43-2076 | 大谷地Ⅳ遺跡 | オオヤチⅣ | 縄文土器 | 花輪第18地割大谷地 |
| 75 | L G 53-0027 | 大谷地Ⅴ遺跡 | オオヤチⅤ | 縄文土器 | 花輪第18地割大谷地 長沢第26地割 |
| 76 | L G 53-0246 | 馬越Ⅱ遺跡 | マゴシⅡ | 土師器 鉄滓 | 津軽石第3地割馬越 |
| 77 | L G 53-0268 | 馬越Ⅰ遺跡 | マゴシⅠ | 縄文土器 土師器 鉄滓 | 津軽石第3地割馬越 |
| 78 | L G 53-0382 | 山崎館 | ヤマサキタテ | 主郭 帯郭 | 津軽石第3地割馬越 第1地割法ノ脇 |
| 79 | L G 44-0248 | 白浜Ⅱ遺跡 | シラハマⅡ | 縄文土器 | 白浜第1地割白浜 |
| 80 | L G 44-0287 | 白浜Ⅲ遺跡 | シラハマⅢ | 縄文土器 | 白浜第1地割白浜 |

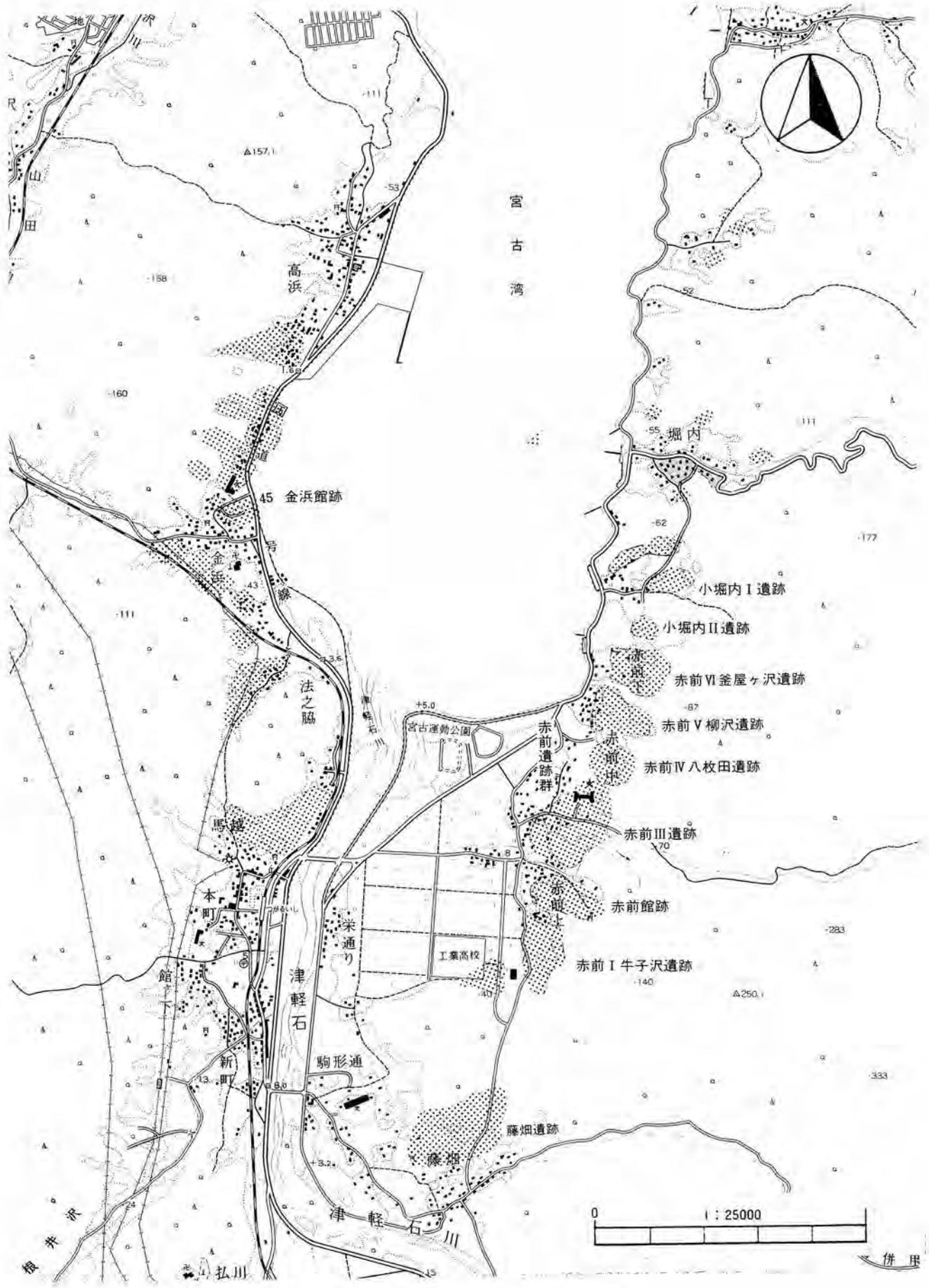
第1表 周辺の遺跡台帳①

| No. | 遺跡コード | 遺跡名 | よみか | 遺構・遺物 | 所在地 |
|-----|-------------|----------|--------------|-------------------|---------------------|
| 81 | L G 44-1234 | 太田浜Ⅰ遺跡 | オオダハマ1 | 縄文土器 | 白浜第3地割太田浜 |
| 82 | L G 44-1247 | 太田浜Ⅱ遺跡 | オオダハマ2 | 縄文土器 | 白浜第3地割太田浜 |
| 83 | L G 44-1271 | 太田浜Ⅲ遺跡 | オオダハマ3 | 縄文土器 | 白浜第3地割太田浜 |
| 84 | L G 44-1282 | 太田浜Ⅳ遺跡 | オオダハマ4 | 縄文土器 | 白浜第3地割太田浜 |
| 85 | L G 44-1290 | 太田浜Ⅴ遺跡 | オオダハマ5 | 縄文土器 | 白浜第3地割太田浜 |
| 86 | L G 44-1155 | 堀内Ⅰ遺跡 | ホリナイ1 | 縄文土器 | 赤前第17地割堀内 |
| 87 | L G 44-2167 | 堀内Ⅱ遺跡 | ホリナイ2 | 縄文土器 | 赤前第16地割堀内 |
| 88 | L G 44-2290 | 堀内Ⅲ遺跡 | ホリナイ3 | 縄文土器 | 赤前第16地割堀内 |
| 89 | L G 44-2195 | 堀内Ⅴ遺跡 | ホリナイ5 | 縄文土器 | 赤前第15地割堀内 |
| 90 | L G 54-0113 | 小堀内Ⅰ遺跡 | コホリナイ1 | 縄文土器 弥生土器 土師器 石皿 | 赤前第14地割小堀内 |
| 91 | L G 54-0123 | 小堀内Ⅱ遺跡 | コホリナイ2 | 縄文土器 | 赤前第14地割小堀内 |
| 92 | L G 54-0160 | 赤前Ⅳ遺跡 | アカマエ4 カマヤカサワ | 縄文土器 | 赤前第13地割釜屋ヶ沢 |
| 93 | L G 54-0089 | 赤前Ⅴ柳沢遺跡 | アカマエ5 ヤナキサワ | 縄文土器 土師器 | 赤前第12地割柳沢 |
| 94 | L G 54-1008 | 赤前Ⅳ八枚田遺跡 | アカマエ4 ハチマイダ | 縄文土器 竪穴住居 羽口 鉄滓 | 赤前第11地割八枚田 |
| 95 | L G 54-1025 | 赤前Ⅲ遺跡 | アカマエ3 | 縄文土器 竪穴住居 羽口 鉄滓 | 赤前第7地割御蔵 10山崎 11八枚田 |
| 96 | L G 54-1064 | 赤前館 | アカマエタテ | 主郭 帯郭 | 赤前第5地割神田 |
| 97 | L G 53-1389 | 久保田遺跡 | タボタ | 縄文土器 土師器 | 赤前第2地割久保田 |
| 98 | L G 54-1072 | 赤前Ⅰ牛子沢遺跡 | アカマエⅠウシコサワ | 縄文土器 | 赤前第3地割牛子沢 |
| 99 | L G 53-2346 | 藤畑遺跡 | フジバタケ | 縄文土器 土師器 須恵器 | 津軽石第12地割藤畑 |
| 100 | L G 42-0384 | 花輪館 | ハナワタテ | 主郭 帯郭 | 花輪第5地割程久保 |
| 101 | L G 42-1312 | 程久保遺跡 | ホドクボ | 主郭 帯郭 | 花輪第5地割程久保 |
| 102 | L G 42-1237 | 寺沢Ⅰ遺跡 | テラサワ2 | 縄文土器 | 長沢第17地割寺沢 |
| 103 | L G 42-1257 | 寺沢Ⅱ遺跡 | テラサワ1 | 縄文土器 | 長沢第17地割寺沢 |
| 104 | L F 43-1040 | 鱒沢館 | マスザワタテ | 主郭 帯郭 | 花輪第17地割鱒沢 第1地割姉戸 |
| 105 | L G 43-1042 | 鱒沢Ⅰ遺跡 | マスザワ1 | 主郭 帯郭 | 花輪第17地割鱒沢 |
| 106 | L G 42-1395 | 下折壁Ⅱ遺跡 | シモオカベ2 | 郭 | 長沢第20地割下折壁 花輪第1地割姉戸 |
| 107 | L G 42-2292 | 折壁館 | オリカベタテ | 主郭 帯郭 | 長沢第12地割向 第21地割中折壁 |
| 108 | L G 42-2326 | 下折壁Ⅰ遺跡 | シモオリカベ1 | 縄文土器 | 長沢第20地割下折壁 |
| 109 | L G 42-2391 | 中折壁Ⅰ遺跡 | ナカオリカベ1 | 縄文土器 | 長沢第21地割中折壁 |
| 110 | L G 52-0321 | 中折壁Ⅱ遺跡 | ナカオリカベ2 | 縄文土器 | 長沢第21地割中折壁 |
| 111 | L G 42-2398 | 下大野Ⅰ遺跡 | シモオノ1 | 縄文土器 | 長沢第23地割下大野 |
| 112 | L G 52-0328 | 下大野Ⅱ遺跡 | シモオノ2 | 縄文土器 | 長沢第23地割下大野 |
| 113 | L G 52-0300 | 折壁Ⅰ遺跡 | オリカベ1 | 鉄滓 | 長沢第地割 |
| 114 | L G 52-0336 | 中大野Ⅰ遺跡 | ナカオノ1 | 縄文土器 | 長沢第24地割中大野 |
| 115 | L G 52-0357 | 上大野Ⅰ遺跡 | カミオノ1 | 縄文土器 | 長沢第25地割上大野 |
| 116 | L G 53-0060 | 長沢横街道Ⅰ遺跡 | ヨコカイドウ1 | 縄文土器 | 長沢第26地割横街道 |
| 117 | L G 53-0072 | 長沢横街道Ⅲ遺跡 | ヨコカイドウ3 | 縄文土器 | 長沢第26地割横街道 |
| 118 | L G 52-0379 | 長沢横街道Ⅱ遺跡 | ヨコカイドウ2 | 縄文土器 | 長沢第26地割横街道 |
| 119 | L G 52-0387 | 上大野Ⅱ遺跡 | カミオノ2 | 縄文土器 | 長沢第25地割上大野 |
| 120 | L G 52-1317 | 上大野Ⅲ遺跡 | カミオノ3 | 縄文土器 | 長沢第25地割上大野 |
| 121 | L G 53-1207 | 津軽石大森遺跡 | ツガルシオオモリ | 縄文土器 | 津軽石第4地割大森 |
| 122 | L G 53-1225 | 沼里遺跡 | ヌマリ | 竪穴住居 縄文土器 土師器 | 津軽石第4地割大森 第6地割沼里 |
| 123 | L G 53-1266 | 沼里館 | ヌマリクテ | 主郭 帯郭 | 津軽石第6地割沼里 第19地割穴田 |
| 124 | L G 53-1281 | 根井沢穴田Ⅱ遺跡 | ネイノサワアナタ2 | 縄文時代 | 津軽石第19地割穴田 |
| 125 | L G 53-1290 | 根井沢穴田Ⅲ遺跡 | ネイノサワアナタ3 | 縄文土器 | 津軽石第19地割穴田 |
| 126 | L G 53-1273 | 根井沢穴田Ⅰ遺跡 | ネイノサワアナタ1 | 縄文土器 土師器 | 津軽石第19地割穴田 |
| 127 | L G 53-2201 | 根井沢穴田Ⅳ遺跡 | ネイノサワアナタ4 | 縄文土器 | 津軽石第19地割穴田 |
| 128 | L G 53-2129 | 根井沢穴田Ⅴ遺跡 | ネイノサワアナタ5 | 縄文土器 | 津軽石第19地割穴田 |
| 129 | L G 53-2205 | 高平館 | タカヒラタテ | 主郭 帯郭 | 津軽石第9地割吉原 第10地割向川原 |
| 130 | L G 53-2264 | 弘川館 | ハライガワタテ | 主郭 帯郭 | 津軽石第14地割弘川 第10地割向川原 |
| 131 | L G 53-2143 | 根井沢日影Ⅰ遺跡 | ネイノサワヒカゲ1 | 縄文土器 | 津軽石第17地割根井沢日影 |
| 132 | L G 53-2152 | 根井沢Ⅰ遺跡 | ネイノサワ1 | 製鉄炉 羽口 鉄滓 縄文土器 | 津軽石第18地割根井沢日向 |
| 133 | L G 53-1093 | 長沢横街道Ⅳ遺跡 | ヨコカイドウ4 | 縄文土器 | 長沢第26地割横街道 |
| 134 | L G 53-2063 | 上根井沢Ⅰ遺跡 | カミネイノサワ1 | 縄文土器 | 津軽石第20地割根井沢 |
| 135 | L G 52-2357 | 上根井沢Ⅳ遺跡 | カミネイノサワ4 | 縄文土器 | 津軽石第20地割根井沢 |
| 136 | L G 52-2369 | 上根井沢Ⅲ遺跡 | カミネイノサワ3 | 縄文土器 | 津軽石第20地割根井沢 |
| 137 | L G 53-2062 | 上根井沢Ⅱ遺跡 | カミネイノサワ2 | 縄文土器 | 津軽石第20地割根井沢 |
| 138 | L G 53-2078 | 根井沢Ⅱ遺跡 | ネイノサワ2 | 縄文土器 鉄滓 | 津軽石第18地割根井沢日向 |
| 139 | L G 53-2164 | 根井沢日影Ⅱ遺跡 | ネイノサワヒカゲ2 | 縄文土器 | 津軽石第17地割根井沢日影 |
| 140 | L G 53-2291 | 弘川Ⅱ遺跡 | ハライガワ2 | 縄文土器 土師器 | 津軽石第14地割弘川 |
| 141 | L G 53-2294 | 弘川Ⅰ遺跡 | ハライガワ1 | 縄文土器 土師器 | 津軽石第14地割弘川 |
| 142 | L G 63-0200 | 弘川Ⅲ遺跡 | ハライガワ3 | 縄文土器 土師器 須恵器 | 津軽石第14地割弘川 |
| 143 | L G 63-0022 | 荷竹米山Ⅶ遺跡 | ニチクヨネヤマ7 | 縄文土器 土師器 | 津軽石第16地割荷竹日向 米山 |
| 144 | L G 63-0026 | 荷竹米山Ⅵ遺跡 | ニチクヨネヤマ6 | 縄文土器 土師器 | 津軽石第16地割荷竹日向 米山 |
| 145 | L G 63-0054 | 荷竹米山Ⅴ遺跡 | ニチクヨネヤマ5 | 縄文土器 土師器 | 津軽石第16地割荷竹日向 米山 |
| 146 | L G 63-0086 | 荷竹米山Ⅳ遺跡 | ニチクヨネヤマ4 | 縄文土器 | 津軽石第16地割荷竹日向 米山 |
| 147 | L G 63-0190 | 荷竹米山Ⅲ遺跡 | ニチクヨネヤマ3 | 縄文土器 弥生土器 土師器 須恵器 | 津軽石第16地割荷竹日向 米山 |
| 148 | L G 63-1019 | 荷竹米山Ⅱ遺跡 | ニチクヨネヤマ2 | 縄文土器 弥生土器 土師器 須恵器 | 津軽石第16地割荷竹日向 米山 |
| 149 | L G 63-1111 | 荷竹米山Ⅰ遺跡 | ニチクヨネヤマ1 | 縄文土器 弥生土器 土師器 須恵器 | 津軽石第16地割荷竹日向 米山 |
| 150 | L G 63-1140 | 荷竹日影Ⅴ遺跡 | ニチクヒカゲ5 | 土師器 鉄滓 | 津軽石第15地割荷竹日影 |
| 151 | L G 63-1152 | 荷竹日影Ⅳ遺跡 | ニチクヒカゲ4 | 土師器 | 津軽石第15地割荷竹日影 |
| 152 | L G 63-1154 | 荷竹日影Ⅲ遺跡 | ニチクヒカゲ3 | 土師器 | 津軽石第15地割荷竹日影 |
| 153 | L G 63-0174 | 荷竹日向Ⅴ遺跡 | ニチクヒナタ5 | 縄文土器 | 津軽石第16地割日向 |
| 154 | L G 63-0157 | 荷竹日向Ⅳ遺跡 | ニチクヒナタ4 | 縄文土器 土師器 須恵器 | 津軽石第15地割荷竹日向 |
| 155 | L G 63-0231 | 荷竹日向Ⅲ遺跡 | ニチクヒナタ3 | 縄文土器 土師器 須恵器 | 津軽石第15地割荷竹日向 |
| 156 | L G 63-0159 | 荷竹日向Ⅱ遺跡 | ニチクヒナタ2 | 縄文土器 土師器 鉄滓 | 津軽石第15地割荷竹日向 |
| 157 | L G 63-0177 | 荷竹日向Ⅰ遺跡 | ニチクヒナタ1 | 縄文土器 土師器 鉄滓 | 津軽石第15地割荷竹日向 |
| 158 | L G 63-0272 | 荷竹日影Ⅰ遺跡 | ニチクヒカゲ1 | 縄文土器 土師器 須恵器 | 津軽石第15地割荷竹日影 |
| 159 | L G 63-0280 | 荷竹日影Ⅱ遺跡 | ニチクヒカゲ2 | 縄文土器 土師器 須恵器 | 津軽石第15地割荷竹日影 |

第1表 周辺の遺跡台帳②



第3図 地形分類図



第4図 赤前遺跡群とその周辺遺跡

II 遺跡をとりまく環境

1 遺跡の位置と立地

宮古市は岩手県の沿岸部ほぼ中央に位置する。市街地は宮古湾に流れこむ2大河川である、閉伊川と津軽石川の氾濫平野に形成されており、周辺部は丘陵と山地に囲まれている。市内の遺跡の大半は河川沿に形成された丘陵上やわずかにみられる段丘上に立地している。

赤前Ⅰ牛子沢遺跡は、北東方向に突き出た重茂半島に囲まれた奥行約10kmほどの宮古湾の最奥部、津軽石川の河口を望む湾東部に位置する。

遺跡は津軽石川の氾濫平野部と山地との間に形成されたなだらかな扇状地斜面上に立地し、南北を山地の張り出しによって区切られ、西側一帯には津軽石川の氾濫平野となっている。今回の調査地点は、ちょうどこの扇状地斜面の南端でしかも西側の氾濫平野に隣接した標高やく10m付近の所である。遺跡が立地する扇状地は東側山地の標高約40m付近までなだらかに続いており、遺跡の本体部も今回の調査地点よりも東側の高い方であると思われる。実際に遺物の表面分布も密度が濃くなっている。

2 赤前遺跡群と周辺の遺跡

調査に至る経過でも記したように当遺跡は「赤前遺跡群」に含まれるものである。この遺跡群の概要については『赤前報文 84』にも記載されているが、山地の尾根の張り出しや小河川や沢で区切られており、北から赤前Ⅵ釜屋ヶ沢遺跡、赤前Ⅴ柳沢遺跡、赤前Ⅳ八枚田遺跡、赤前Ⅲ遺跡、赤前館跡、赤前Ⅰ牛子沢遺跡とつながっている。これらのうち一部発掘調査されたものもあり、また平成7年度に調査予定の遺跡がある。それらをまとめると次のとおりである。

『赤前報文 84』

赤前地区発掘調査実績一覧表

| No | 遺跡名 | 調査時期 | 調査担当 | 調査原因 | 調査成果 | 報告書等 |
|----|-----------|-------|------|---------|-----------------------------|----------------|
| 1 | 赤前Ⅳ八枚田遺跡 | 昭和54年 | 武田将男 | 赤前小学校建設 | 平安時代竪穴住居跡住居跡3棟、縄文時代早期遺物包含層 | 『赤前報文 84』 |
| 2 | 赤前Ⅲ遺跡 | 昭和57年 | 武田将男 | 宅地造成 | 建物遺構1棟、土壊跡2基、平安時代竪穴住居跡住居跡2棟 | 『赤前報文 84』 |
| 3 | 赤前Ⅰ牛子沢遺跡 | 昭和59年 | 武田将男 | 個人住宅建築 | 竪穴1棟、中世陶磁器など | 未報告 |
| 4 | 赤前Ⅰ牛子沢遺跡 | 平成4年 | 鎌田祐二 | 個人住宅建築 | 土壊跡35基、縄文時代遺物包含層、陶磁器など | 本報告書 |
| 5 | 小堀内Ⅲ遺跡 | 平成5年 | 阿部 豊 | 道路建設 | 縄文時代～近世の遺物包含層 | 未報告(平成8年度刊行予定) |
| 6 | 赤前Ⅳ釜屋ヶ沢遺跡 | 平成5年 | 阿部 豊 | 道路建設 | 近世の遺物包含層 | 未報告(平成8年度刊行予定) |
| 7 | 小堀内Ⅲ遺跡 | 平成6年 | 阿部 豊 | 道路建設 | 奈良・平安時代竪穴住居跡住居跡6棟、鍛冶炉跡など | 未報告(平成8年度刊行予定) |
| 8 | 赤前Ⅴ柳沢遺跡 | 平成6年 | 阿部 豊 | 道路建設 | 遺物包含層 | 未報告(平成8年度刊行予定) |

赤前館跡

次に前記のうち赤前館跡についてだが、その築城年代は南北朝時代（14世紀代）とされ、鎌倉時代末から中世にかけて当地方を支配した閉伊氏の所領地の南の砦として赤前治郎左衛門為義によって築城されたといわれている（註1）。

小堀内Ⅲ遺跡

藤畑遺跡

周辺の遺跡について『分布図 86』、『宮古市史 年表—宮古市遺跡分布図』（註2）でみると「赤前遺跡群」の立地する宮古湾東岸部の北側には、小堀内～堀内地区に小規模ながら遺跡が連続しており、一部は平成5年度から調査が実施されている。縄文時代、奈良・平安時代の遺跡がほとんどで、平成6年度に調査された小堀内Ⅲ遺跡からは平安時代の竪穴住居跡や鍛冶炉跡などが検出されている。また、当遺跡群の南側には比較的大規模な藤畑遺跡があり縄文時代から古代にかけての遺物が採集されている。

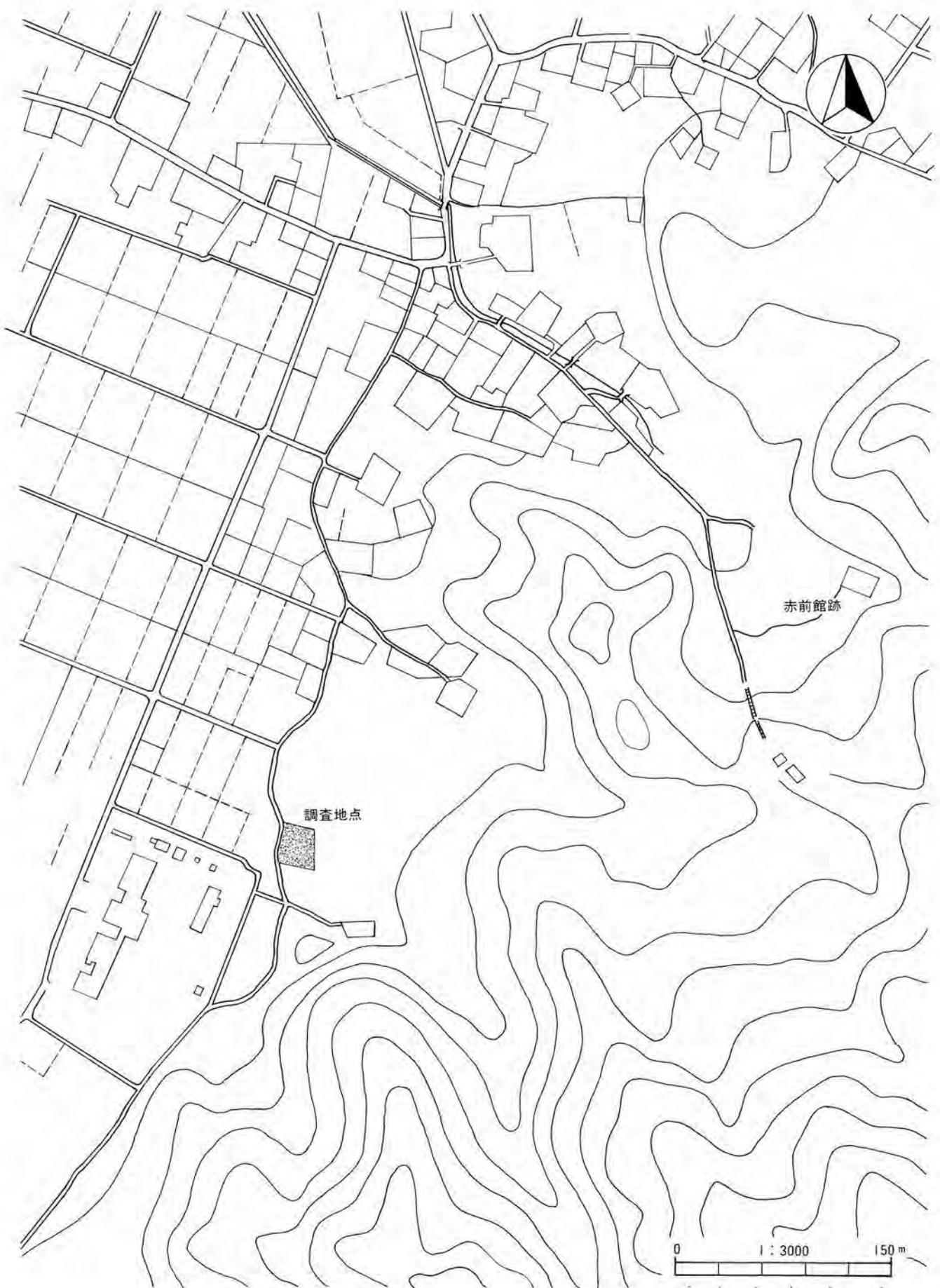
一方、湾をはさんで西岸部にも多くの遺跡が確認されており、調査された遺跡としては金浜館跡（『金浜館 85』）、金浜Ⅰ遺跡（『金浜Ⅰ・大付 92』）、弘川Ⅰ遺跡（『弘川Ⅰ 91』）がある。また、未調査ながら津軽石地区の沼里遺跡からは8世紀前半の土師器のセットが、弘川地区では6世紀末～7世紀代のものと思われる土師器の壺が発見されており、津軽石川の河口部をはさんだ津軽石～弘川～藤畑～赤前地区には古代の大規模な集落の変遷があったと考えられ、閉伊川流域の古代の集落の在り方との対比など今後の課題のひとつとなっている。

（註1） 田村忠博『宮古地方の中世史 古城物語』（1986）による。

（註2） 『宮古市史 年表』 1991 宮古市教育委員会編 宮古市発行

本文中の遺構名は調査、整理事業時に付した遺構名と異っている。その対応関係は次のとおりである。

| 本文中遺構名 | 登録番号 | 本文中遺構名 | 登録番号 | 本文中遺構名 | 登録番号 |
|---------|------|---------|------|---------|------|
| 第1号土壇跡 | P 8 | 第13号土壇跡 | P 6 | 第25号土壇跡 | P18 |
| 第2号土壇跡 | P 2 | 第14号土壇跡 | P12 | 第26号土壇跡 | P25 |
| 第3号土壇跡 | P30 | 第15号土壇跡 | P 4 | 第27号土壇跡 | P11 |
| 第4号土壇跡 | P24 | 第16号土壇跡 | P13 | 第28号土壇跡 | P31 |
| 第5号土壇跡 | P 7 | 第17号土壇跡 | P23 | 第29号土壇跡 | P32 |
| 第6号土壇跡 | P21 | 第18号土壇跡 | P 9 | 第30号土壇跡 | P34 |
| 第7号土壇跡 | P28 | 第19号土壇跡 | P 3 | 第31号土壇跡 | P34 |
| 第8号土壇跡 | P27 | 第20号土壇跡 | P14 | 第32号土壇跡 | P35 |
| 第9号土壇跡 | P 5 | 第21号土壇跡 | P22 | 第33号土壇跡 | P36 |
| 第10号土壇跡 | P15 | 第22号土壇跡 | P10 | 第34号土壇跡 | P33 |
| 第11号土壇跡 | P26 | 第23号土壇跡 | P16 | 第35号土壇跡 | P 1 |
| 第12号土壇跡 | P29 | 第24号土壇跡 | | | |



第5図 遺跡周辺地形図

Ⅲ 調査内容

1 調査の方法

調査は住居建物と車庫建物部分のみを対象として実施した。北側のL字状の部分が住居で南側の正方形部分が車庫である。土層確認のために残したベルトを境とし、北からⅠ区、Ⅱ区、Ⅲ区、Ⅳ区とした。調査座標は地形にあわせて任意に設定した。

Ⅰ区、Ⅲ区は表土下が地山漸位層で遺構検出面となっており、それがⅠ区とⅡ区の境付近から急激に落ちこみⅡ区の最西部深掘りトレンチでは湧水がみられる。また、Ⅳ区では砂層が堆積し明かに南側に流れている小沢からの土砂の流出が確認された。

2 調査区の礫の状況

次に第10図はⅣ区内の集礫を立ち割った土層断面であるが、すべてⅡ層ないしはⅢ層中のもので、調査要旨の項でも記したとおりこの下部には土壌跡などの掘りこみも確認されず、また遺物などの集積も確認されなかった。むしろ、押し流がされてきたような状態で水の流れに沿って溜った状況といえる。よって、確かにⅠ区、Ⅱ区、Ⅲ区の礫の状況と異なった状態だが、いずれも人為的な要素はなく自然によるものと判断した。

第7図のようにほぼ調査区全体に大～小の角礫～亜角礫のひろがっている。これは、表土からすでに露出しているものもあり、遺跡の立地している扇状地形成時に東側にひかえる山地から流出してきたもので、人為的なものとは考えられない。前述のようにⅣ区などは3列状態に堆積しており人為的なものの可能性も考えられたが、南側の小沢により形成されたと思われる扇状地形のひろがりとはほぼ一致しており、また、集礫の立ち割りをみても遺構は確認できず、むしろ砂層に含まれていることから自然によるものと考えられる。

このような状況は、今回の調査区の東側にひろがる斜面部でもすでに表土から大礫が露出ししており背後の山地より多量の土石が流出したことが予測される。

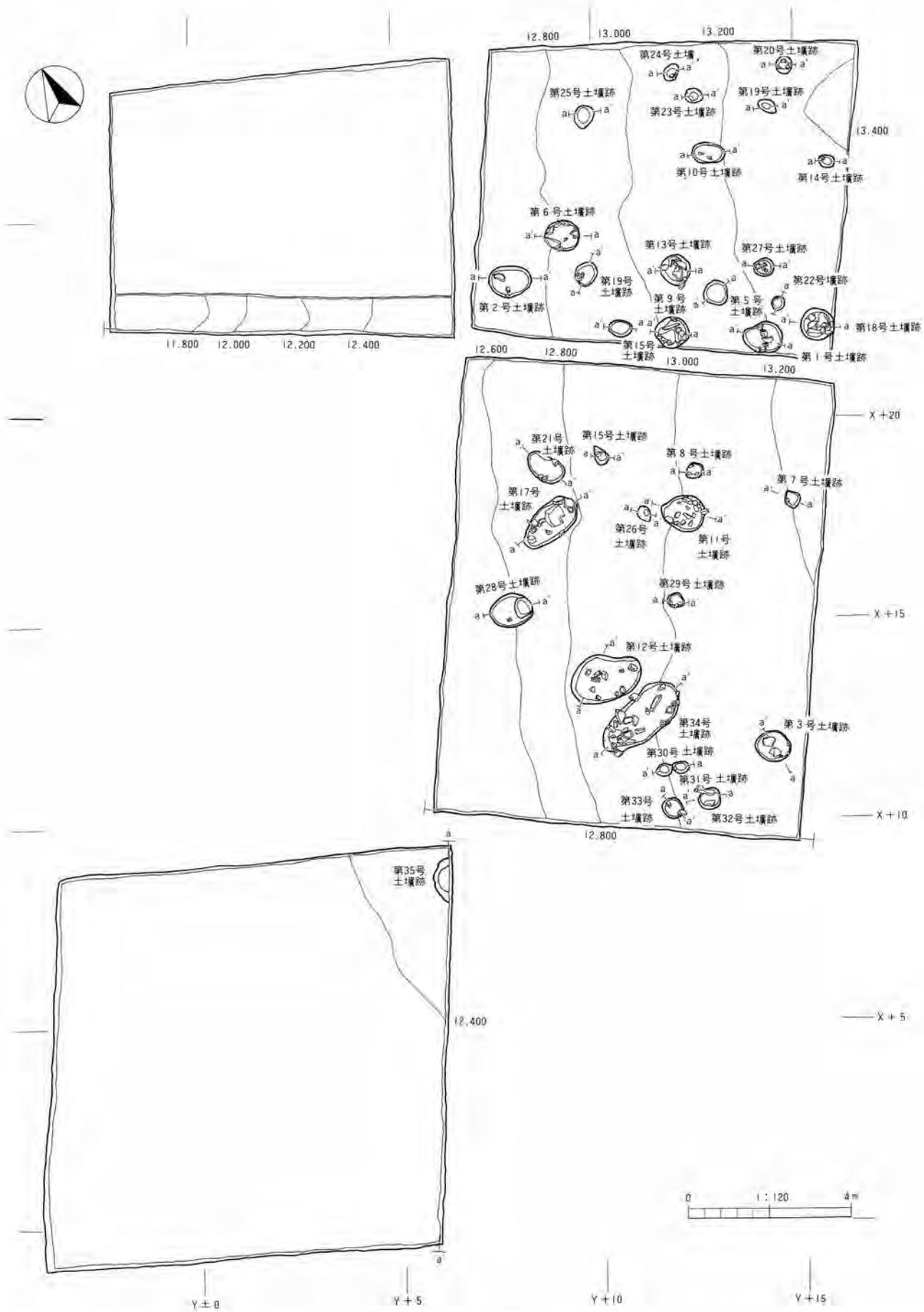
3 基本層序

調査区Ⅰ区～Ⅳ区で確認された土層は4層に大別された。

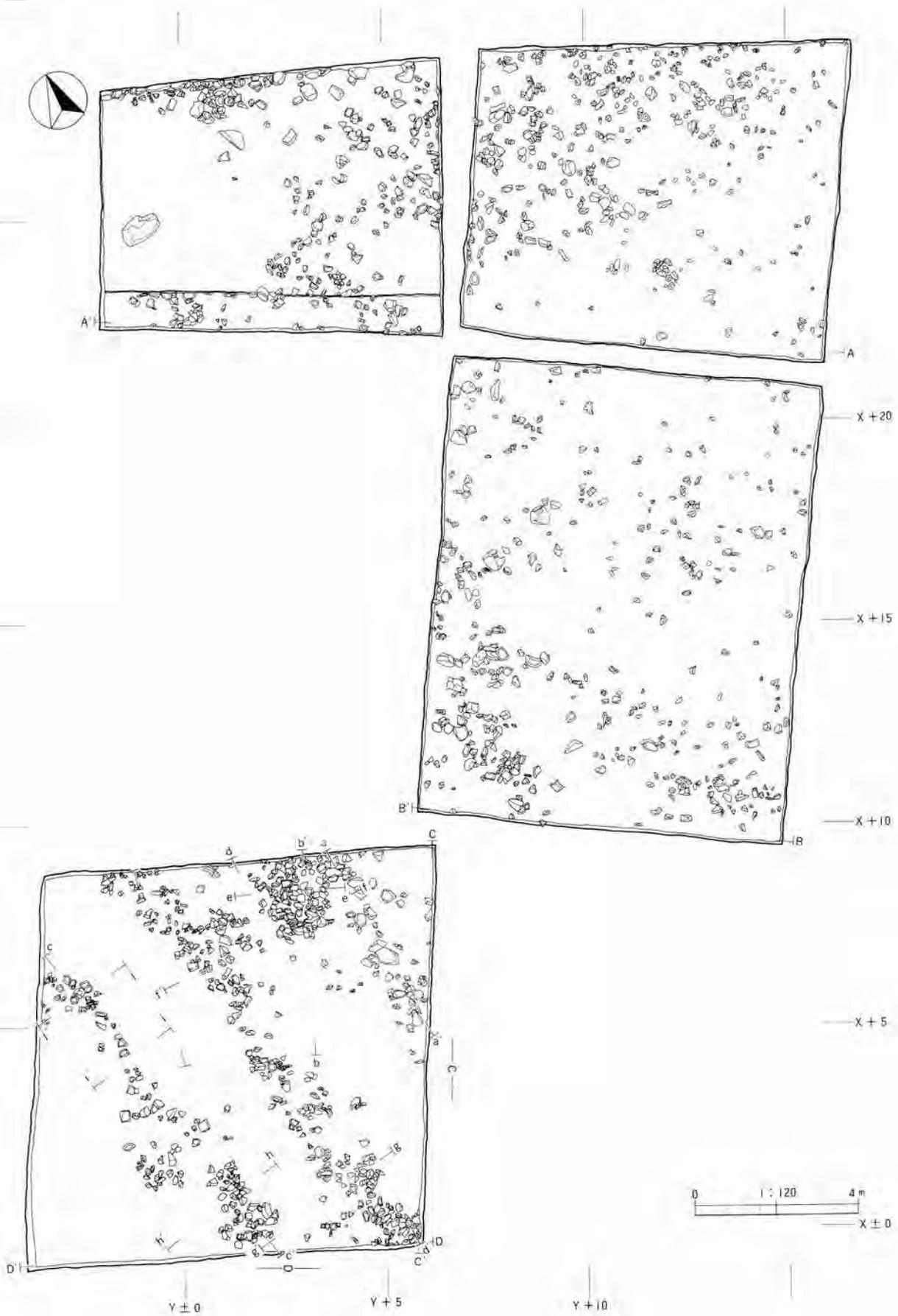
Ⅰ層 表土層で2層に細分される。Ⅰa層は調査区全体を覆う暗褐色土層で木根、細礫などを含む現在の表土層である。Ⅰ区、Ⅲ区のほぼ東半分位はこのⅠ層以下が地山層となる。

Ⅰb層はⅣ区で確認された土層で明るい黒褐色土層である。これは、Ⅳ区の一部だけを畑として利用していたという時期があったためである。

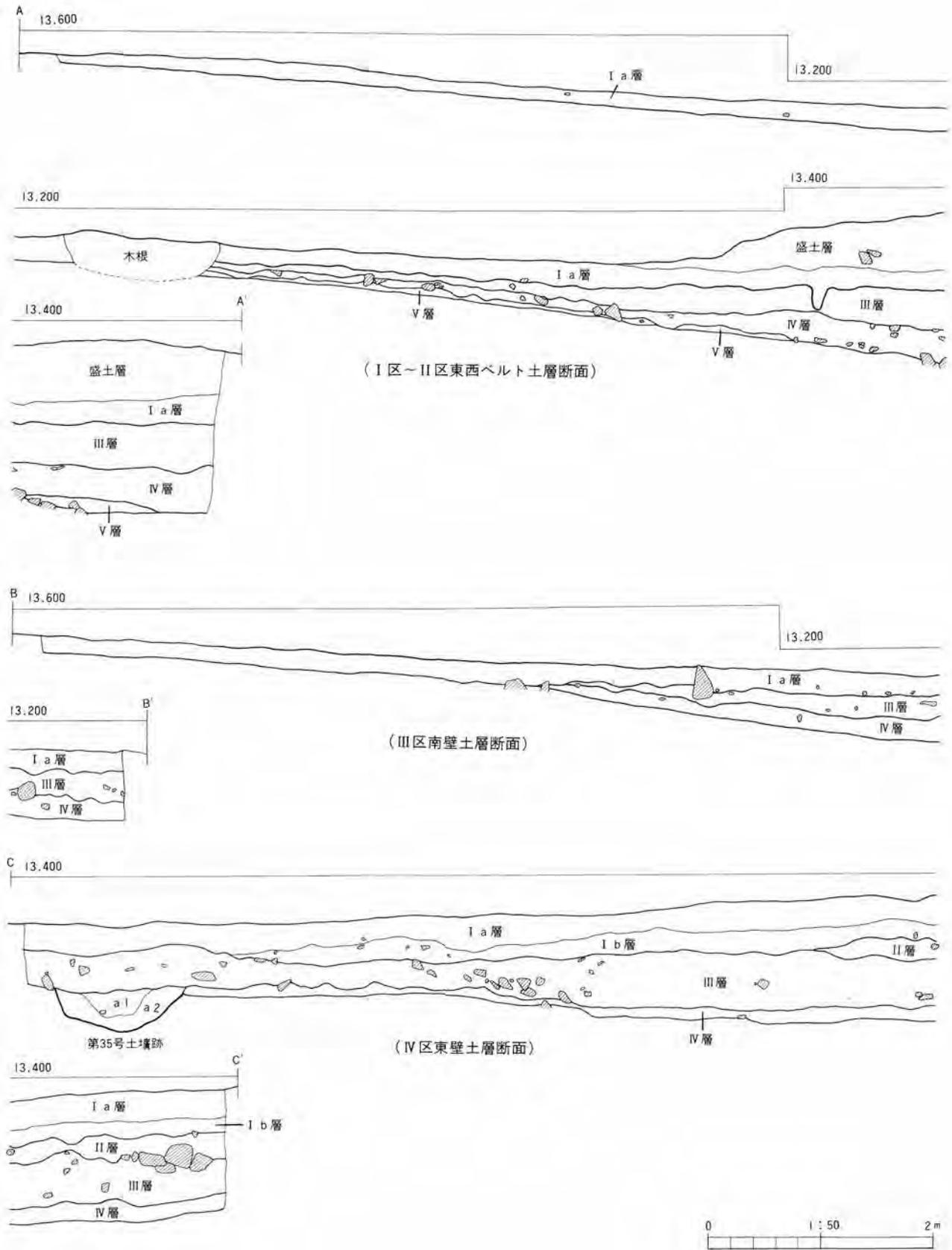
Ⅱ層 Ⅳ区のみで確認された土層で明褐色の砂層で、既述のとおり南側の沢から流出したも



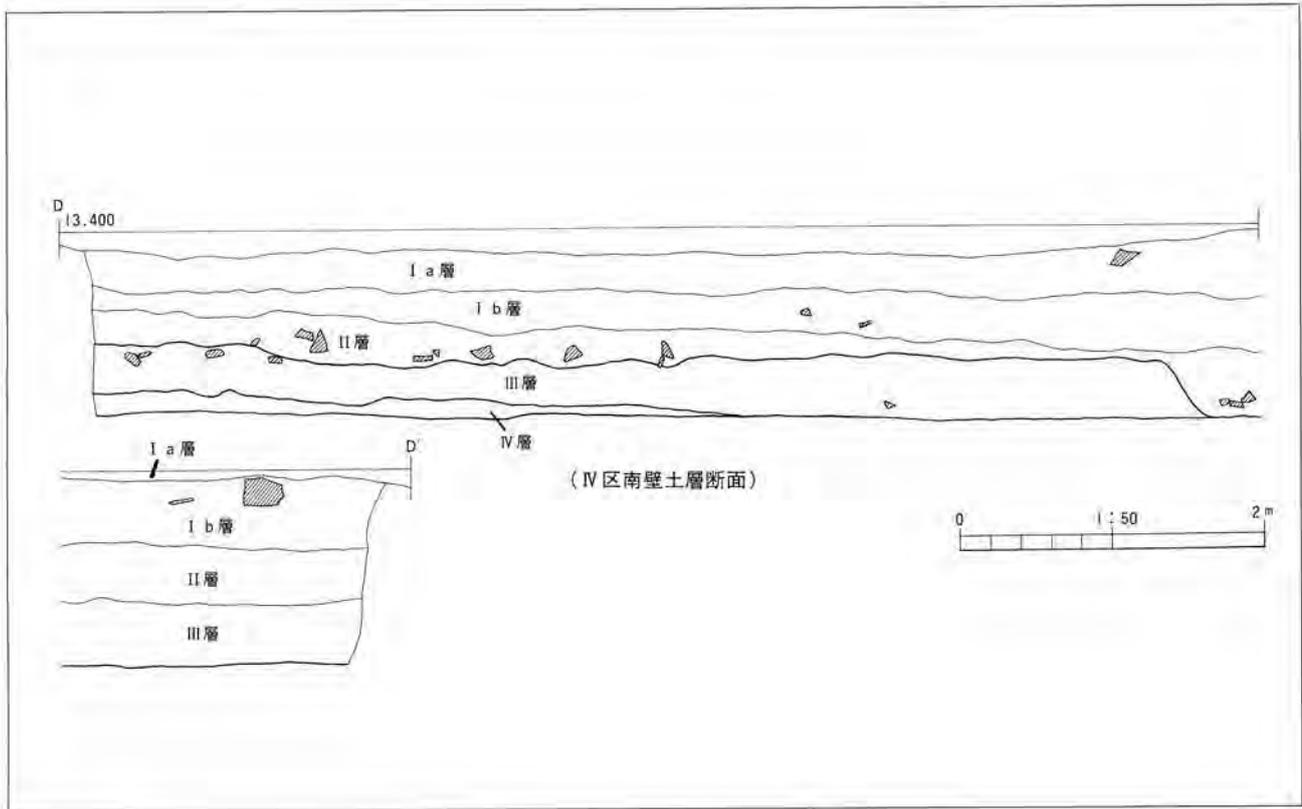
第6図 調査区全面図①



第7図 調査区全面図②



第8図 調査区断面図



第9図 調査区断面②

のと考えられる。表土下に存在しているということで比較的新しい時期のものと思われる。全くしまりのないやや粒径の大きめな粗い砂層である。遺物は近現代の磁器片や第14図30のような土師器片や鉄滓が数点出土している。

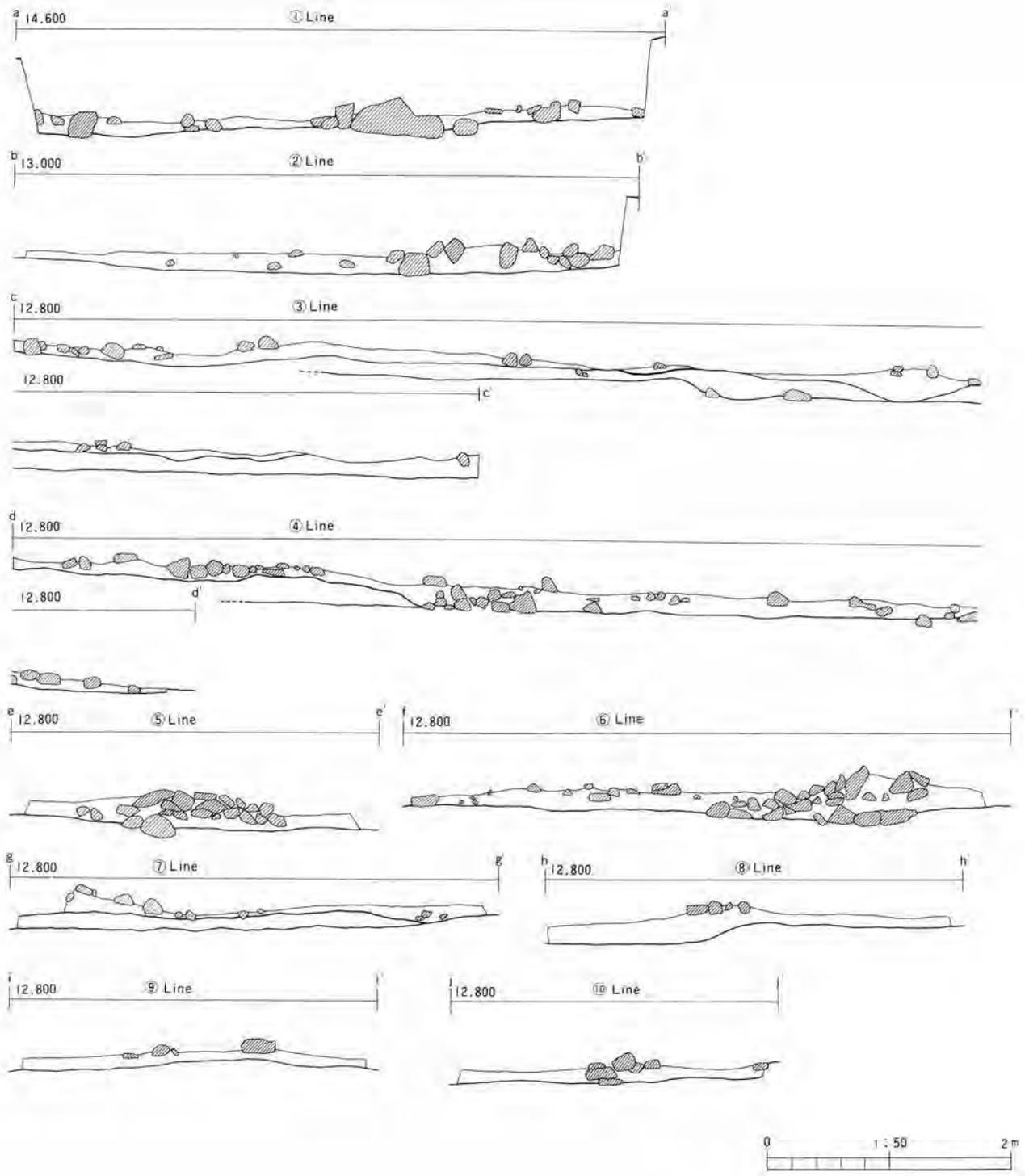
III層 II区、III区の西側、IV区に堆積するもので調査区の西側の津軽石川の氾濫平野に向かって落ちこんでいく。やや粘性のある黒色土層で細礫から大礫を含む。やや固く、しまりは中程度である。II区の深掘トレンチでは縄文土器片、IV区では青磁片、陶器片、鉄滓、縄文土器片などが出土している。

IV層 褐色の固くしまった土層で、III層同様に礫を含む。遺物も数点ほどしか出土しない。

V層 地山もしくは地山漸位層で黄色褐色土層で角礫、亜角礫を含む。遺物は出土しない。

4 検出した遺構・遺物

検出した遺構は土壇跡、小ピット類だがすべて第何号土壇跡というような名称をつけ記述する。IV区で検出した第35号土壇跡以外はすべて表土直下のV層上面で検出したものである。



第10図 調査区IV区の集礫断面図

第1号土坑跡（第11図）

I区の南東側に位置する。平面形はだ円形状を呈し長径1.00m、短径0.80m、深さ0.10mをはかる。埋土は1層からなる。黒褐色土を基本とし黄褐色土を小塊状～粒状に混入する。固さ、しまりとも中程度である。また、礫が含まれるが調査区全体に大～小礫がひろがっており、当土坑跡に伴ったものかは不明である。

遺物は埋土中から数点出土しているが、いずれも地文だけのものであるが、第14図4は複合口縁部の上端を欠くものだから口縁部に羽状縄文が施文されている。

第2号土坑跡（第11図）

I区の西南側に位置する。平面形はだ円形状を呈し長径1.10m、短径0.78m、深さ0.17mをはかる。埋土は1層からなる。暗褐色土を基本とし黒褐色土、黄褐色土を塊状～粒状に多量に混入する。固さ、しまりとも中程度よりやや固くしまっている。また、礫が含まれるがやはり当土坑跡に伴ったものかは不明である。

遺物は埋土中から数点出土しているが、第14図2のようないずれも地文だけのもので詳細は不明である。

第3号土坑跡（第12図）

III区の東南側に位置する。平面形はほぼ円形状を呈し長径0.80m、短径0.75m、深さ0.12mをはかる。埋土は1層からなる。黒褐色土を基本とし固さ、しまりとも中程度である。また、ほぼ平川な亜角礫から円礫状を呈する礫が含まれるが、やはり当土坑跡に伴ったものかは断定できない。

遺物は出土していない。

第4号土坑跡（第12図）

III区の中央からやや西側に位置する。平面形はだ円形状を呈し長径0.50m、短径0.35m、深さ0.19mをはかる小ピットである。埋土は1層からなり更に2層に細別される。a1層は黒褐色土を基本とし暗褐色土をわずかに混入する。固さ、しまりとも中程度である。a2層は暗褐色土を基本とし褐色土塊が混入する。やや固く、しまっている。

遺物は出土していない。

第5号土坑跡（第11図）

I区の東北に位置する。平面形は円形状を呈し直径0.60m、深さ0.20mをはかる。埋土は1層からなり更に2層に細別される。a1層は黒褐色土を基本とし、固さ、しまりとも中程度である。a2層は暗褐色土を基本とし黄褐色土塊が混入する。固さ、しまりとも中程度である。また、埋土中に礫が含まれるが、やはり当土坑跡に伴ったものかは断定しかねる。

遺物は出土していない。

第6号土坑跡（第11図）

I区の中央からやや南側に位置する。平面形はほぼ円形状を呈し長径0.88m、短径0.75m、深さ0.20mをはかる。埋土は1層からなる。黒褐色土を基本とし黄褐色土を塊状～粒状に少量混入する。固さ、しまりとも中程度よりやや固くしまっている。また、礫が壁面を巡るように含まれるがやはり当土坑跡に伴ったものかは断定しかねる。

遺物は出土していない。

第7号土坑跡（第12図）

Ⅲ区の東側に位置する。平面形はやや方形状を呈し長径0.42m、短径0.35m、深さ0.06mをはかる小ピットである。埋土は1層からなる。黒褐色土を基本とし黄褐色土を塊状～粒状に少量混入する。固さ、しまりとも中程度よりやや固くしまっている。

遺物は出土していない。

第8号土坑跡（第12図）

Ⅲ区の中央からやや東側に位置する。平面形はほぼ円形状を呈し長径0.42m、短径0.40m、深さ0.14mをはかる小ピットである。埋土は1層からなり更に2層に細別される。a1層はやや暗い暗褐色土を基本とし、固さ、しまりは中程度である。a2層は黒褐色土を基本とし黄褐色土を塊～粒状に混入する。固く、しまりとも中程度である。

遺物は出土していない。

第9号土坑跡（第11図）

I区の南側の中央に位置する。平面形はほぼ円形状を呈し長径0.85m、短径0.74m、深さ0.21mをはかる。埋土は1層からなり更に2層に細別される。a1層は黒褐色土を基本とし、固さ、しまりとも中程度である。a2層は暗褐色土を基本とし褐色～黄褐色土を小塊状に混入する。固さ、しまりとも中程度である。また、角礫～亜角礫を含むがやはり当土坑跡に伴ったものかは断定しかねる。

遺物は出土していない。

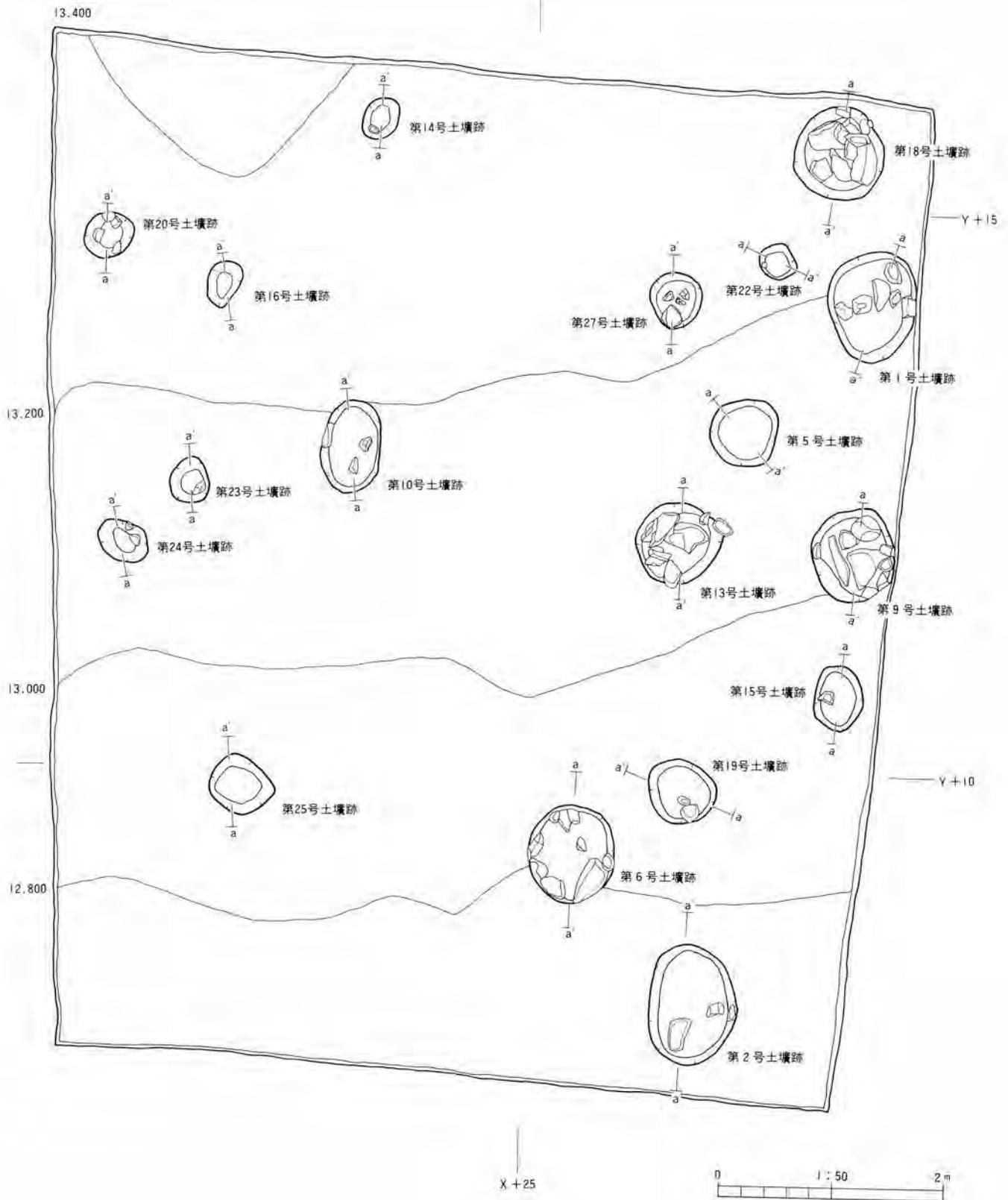
第10号土坑跡（第11図）

I区のはほぼ中央に位置する。平面形はだ円形状を呈し長径0.83m、短径0.53m、深さ0.08mをはかる。埋土は1層からなる。黒褐色土を基本とし、固さ、しまりともやや欠く。

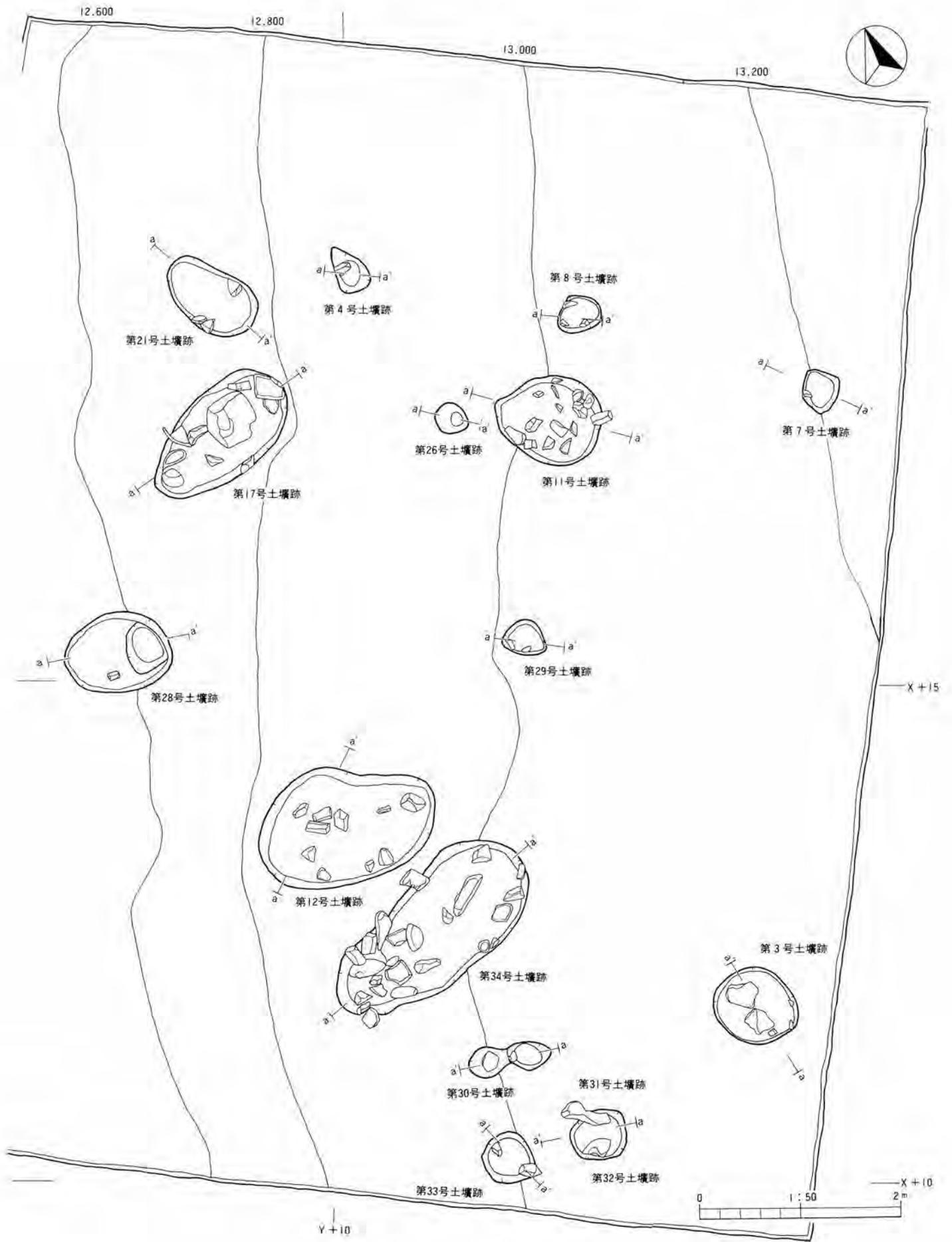
遺物は出土していない。

第11号土坑跡（第12図）

Ⅲ区のはほぼ中央に位置する。平面形はだ円形状を呈し長径1.10m、短径0.90m、深さ0.15mをはかる。埋土は1層からなり更に2層に細別される。a1層は黒褐色土を基本とし、固さ、しまりとも中程度である。a2層は暗褐色土を基本とし褐色～黄褐色土を小塊状に混入する。固さ、しまりとも中程度である。また、角礫～亜角礫を含むがやはり当土坑跡に伴ったものか



第11図 検出した土壌跡 (I区)



第12図 検出した土壌跡 (Ⅲ区)

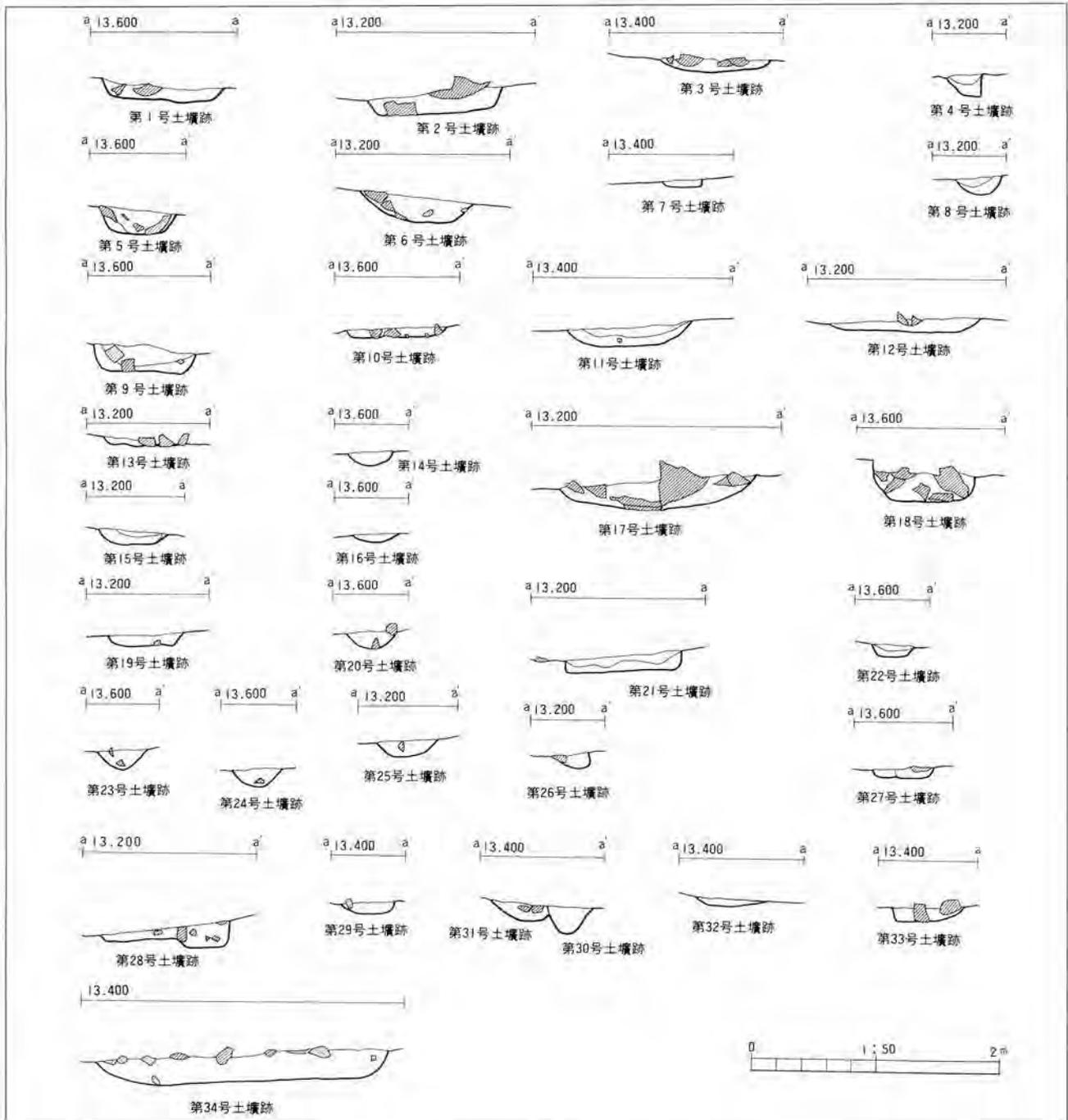
は断定しかねる。

遺物は出土していない。

第12号土壇跡 (第12図)

Ⅲ区のほぼ中央から南側に位置する。平面形はだ円形状を呈し長径1.70m、短径1.10m、深さ0.12mをはかる。埋土は1層からなる。黒褐色土を基本とし、固さ、しまりとも中程度である。また、角礫～亜角礫を含むがやはり当土壇跡に伴ったものかは断定しかねる。

遺物は出土していない。



第13図 土壇跡断面図

第13号土壌跡（第11図）

I区のほぼ中央の南側に位置する。平面形はほぼ円形状を呈し長径0.76m、短径0.73m、深さ0.05mをはかる。埋土は1層からなる。黒褐色土を基本とし、固さ、しまりとも中程度である。角礫～亜角礫を含むがやはり当土壌跡に伴ったものかは断定しかねる。

遺物は第14図3が出土している。これは胴部の破片で沈線により区画文を施文するものである。

第14号土壌跡（第11図）

I区の東側に位置する。平面形はほぼ円形状を呈し長径0.40m、短径0.32m、深さ0.11mをはかる小ピットである。埋土は1層からなる。黒褐色土を基本とし、固さ、しまりとも中程度である。

遺物は出土していない。

第15号土壌跡（第11図）

I区の南側中央に位置する。平面形はだ円形状を呈し長径0.59m、短径0.44m、深さ0.13mをはかる小ピットである。埋土は1層からなり更に2層に細別される。a1層は黒褐色土を基本とし、固さ、しまりとも中程度である。a2層は暗褐色土を基本とし褐色～黄褐色土を小塊状に混入する。固さ、しまりとも中程度である。

遺物は出土していない。

第16号土壌跡（第11図）

I区の北東側に位置する。平面形はだ円形状を呈し長径0.43m、短径0.28m、深さ0.07mをはかる小ピットである。埋土は1層からなる。黒褐色土を基本とし、固さ、しまりともにやや欠く。

遺物は出土していない。

第17号土壌跡（第12図）

III区の南側、第12号土壌跡の南に位置する。平面形はだ円形状を呈し長径1.62m、短径0.86m、深さ0.25mをはかる。埋土は1層からなる。黒褐色土を基本とし黄褐色土を小塊～粒状に混入する。固さ、しまりとも中程度である。また、比較的大きめな角礫～亜角礫を含むがやはり当土壌跡に伴ったものかは断定しかねる。

遺物は出土していない。

第18号土壌跡（第11図）

I区の南東側に位置する。平面形はほぼ円形状を呈し長径0.83m、短径0.79m、深さ0.23mをはかる。埋土は1層からなる。黒褐色土を基本とし黄褐色土を小塊～粒状に混入する。固さ、しまりとも中程度である。また、角礫～亜角礫を含むがやはり当土壌跡に伴ったものかは断定しかねる。

遺物は出土していない。

第19号土壌跡（第11図）

I区の南西側に位置する。平面形はほぼ円形状を呈し長径0.62m、短径0.56m、深さ0.09mをはかる。埋土は1層からなる。黒褐色土を基本とし黄褐色土を小塊～粒状に混入する。固さ、しまりとも中程度である。

遺物は出土していない。

第20号土壌跡（第11図）

I区の北東側に位置する。平面形はほぼ円形状を呈し長径0.43m、短径0.40m、深さ0.14mをはかる小ピットである。埋土は1層からなる。黒褐色土を基本とし、固さ、しまりとも中程度である。

遺物は第14図5のような地文のみ的小破片が数点出土しているが詳細は不明である。

第21号土壌跡（第12図）

III区の北西側に位置する。平面形はだ円形状を呈し長径1.00m、短径0.60m、深さ0.13mをはかる。埋土は1層からなり更に2層に細別される。a 1層は黒褐色土を基本とし暗褐色土を小塊～粒状に混入する。固さ、しまりとも中程度である。a 2層は暗褐色土を基本とし褐色～黄褐色土を小塊状に混入する。やや固く、しまっている。

遺物は出土していない。

第22号土壌跡（第11図）

I区の東南側に位置する。平面形はほぼ円形状を呈し長径0.35m、短径0.32m、深さ0.10mをはかる小ピットである。埋土は1層からなり更に2層に細別される。a 1層は黒褐色土を基本とし暗褐色土を小塊～粒状に混入する。固さ、しまりとも中程度である。a 2層は暗褐色土を基本とし褐色～黄褐色土を小塊状に混入する。やや固く、しまっている。

遺物は出土していない。

第23号土壌跡（第11図）

I区の北側に位置する。平面形はだ円形状を呈し長径0.40m、短径0.35m、深さ0.17mをはかる小ピットである。埋土は1層からなる。黒褐色土を基本とし、固さ、しまりとも中程度である。

遺物は出土していない。

第24号土壌跡（第11図）

I区の北側、第23号土壌跡の西に位置する。平面形はだ円形状を呈し長径0.47m、短径0.35m、深さ0.15mをはかる小ピットである。埋土は1層からなる。黒褐色土を基本とし、固さ、しまりとも中程度である。

遺物は出土していない。

第25号土壙跡（第11図）

I区の北西側に位置する。平面形はほぼ円形状を呈し長径0.58m、短径0.53m、深さ0.13mをはかる小ピットである。埋土は1層からなる。黒褐色土を基本とし、固さ、しまりとも中程度である。

遺物は出土していない。

第26号土壙跡（第12図）

III区のほぼ中央やや北側に位置する。平面形はほぼ円形状を呈し長径0.33m、短径0.31m、深さ0.12mをはかる小ピットである。埋土は1層からなる。黒褐色土を基本とし、固さ、しまりとも中程度よりやや欠く。

遺物は出土していない。

第27号土壙跡（第11図）

I区の南東側に位置する。平面形はほぼ円形状を呈し長径0.50m、短径0.45m、深さ0.08mをはかる小ピットである。埋土は1層からなる。黒褐色土を基本とし褐色～黄褐色土が小塊～粒状に混入する。固さ、しまりは中程度である。

遺物は出土していない。

第28号土壙跡（第12図）

III区の中央部西側に位置する。平面形はだ円形状を呈し長径1.07m、短径0.80m、深さ0.19mをはかる。東側の底面が小ピット状に深くなる。埋土は1層からなる。黒褐色土を基本とし褐色～黄褐色土が小塊～粒状に混入する。固さ、しまりは中程度である。

遺物は出土していない。

第29号土壙跡（第12図）

III区のほぼ中央に位置する。平面形はほぼ円形状を呈し長径0.45m、短径0.36m、深さ0.10mをはかる小ピットである。埋土は1層からなる。黒褐色土を基本とし、固さ、しまりとも中程度よりやや欠く。

遺物は出土していない。

第30、31号土壙跡（第12図）

III区の南側に位置する。重複関係にあり、第31号土壙跡の方が新しい。両者ともに平面形はだ円形状を呈し長径0.40m、短径0.30mで、深さは第31号土壙跡の方が0.18m、第30号は0.10mをはかる小ピットである。埋土もほぼ似ておりどちらも1層からなる。両者とも黒褐色土を基本とし第31号土壙跡の方には褐色～黄褐色土が混入している。固さ、しまりはとも中程度よりやや欠く。

遺物は両者とも出土していない。

第32号土坑跡（第12図）

Ⅲ区の南側中央に位置する。平面形はほぼ円形状を呈し長径0.57m、短径0.50m、深さ0.06mをはかる。埋土は1層からなる。黒褐色土を基本とし、固さ、しまりとも中程度である。

遺物は出土していない。

第33号土坑跡（第12図）

Ⅲ区の南側中央に位置する。平面形はほぼ円形状を呈し長径0.53m、短径0.53m、深さ0.10mをはかる。埋土は1層からなる。黒褐色土を基本とし、固さ、しまりとも中程度である。

遺物は出土していない。

第34号土坑跡（第12図）

Ⅲ区のほぼ中央から南側に位置する。平面形はだ円形状を呈し長径2.30m、短径0.95m、深さ0.20mをはかる。埋土は1層からなる。黒褐色土を基本とし、固さ、しまりとも中程度である。また、角礫～亜角礫を含むがやはり当土坑跡に伴ったものかは断定しかねる。

遺物は出土していない。

第35号土坑跡（第12図）

Ⅳ区の北東側、ほぼⅢ区と接するところに位置する。遺構のほぼ半分は調査区外である。検出面は基本層序Ⅳ層の上面である。平面形はだ円形状を呈し長径1.15m、短径は現存値で0.60m、深さ0.40mをはかる。埋土は基本層序Ⅲ層と同一の1層からなり更に2層に細別される。a 1層はやや粘性のある黒色土を基本とし、固さ、しまりとも中程度である。a 2層もa 1層とほぼ似ているが、褐色～黄褐色土の混入がみられる。また、角礫～亜角礫を含むがやはり当土坑跡に伴ったものかは断定しかねる。

遺物は第14図1のような地文のみの土器片が数点出土している。

5 遺構外出土遺物（第14図～第17図）

包含層

大半がⅡ区の深掘トレンチの包含層から出土したものであるが、包含層といっても遺物が密集しているほどではなく、散発的に含まれているものである。そのほか、Ⅳ区からもわずかであるが遺物が出土している。以下、土器、石器と記し陶磁器類はまとめの項で記述する。

① 土器（第14図）

縄文土器

6～11はⅡ区の深掘トレンチのⅢ層かま出土したものである。6～8、11は胴部の破片で、6は隆線が施文されるもの。7は隆沈線により区画文を施す。8、11は縄文の上に沈線により文様を描くもので、8には渦巻き状の沈線がみられる。9、10は口縁部片で9は口縁上端に2

条の隆線を巡らせるもの。10は口縁が内湾するもので口縁上端は無文部で沈線で円形状の文様を描くものか。

12～17は同じくⅢ層下部～Ⅳ層上面から出土したものである。12～14は口縁部片で、12は口縁部上面が平坦で直下より横位の捺糸圧痕を施文するもの。13は口縁部が内湾気味となるMKで無文部に平行する隆沈線を施す。14は直立する口縁部上端に2条の隆線を巡らしその直下に沈線で円形の区画文を施文する。15は顔ぶから胴部にかけての破片で頸部を無文帯にし胴部に隆沈線で文様を描くものか。16、17は胴部片で、16は地文の上に細い隆線で文様を施す。17は隆沈線で区画文を施文するものか。

18～24、29は同じくⅣ層から出土したものである。18は胎土に植物繊維を含むもので口縁直下より縄文を施文するもの。19、20は口縁上端に隆沈線を巡らせその下は地文を施文するだけのもの。21は山形状口縁となるもので、内湾する口縁部は無文で隆沈線を巡らせ胴部には隆線で波状の文様を施文している。22は口縁部上端が外傾するもので無文部に沈線が施文される。23は内湾する口縁部に円形の区画を有すブリッジ状の突起が付くもの。24は地文のみの胴部片である。29は底部片である。

25～28はⅣ区から出土したものである。25は基本層序Ⅱ層から、26以下はⅢ層から出土した。25は口縁部片で口縁上端に隆線を巡らせるものか。26～28はいずれも縄文主体のものである。

以上の縄文時代の土器以外にもⅥ区からは、第14図30のような土師器片がⅡ層から1片だけだが出土している。内面黒色処理を施している平底のものである。器面調整などは摩滅が著しく不明である。

土師器片

② 石器 (第15図～第16図)

第15図31～36は剥片石器。31はⅢ区のⅠ層から出土した石鏃である長さ2.1cm、最大幅1.6cm、厚さ0.3cm、重量0.7gをはかる。基部が凹基となる三角鏃で両面ともに丁寧な剥離が施されている。32はⅢ区の西端部のⅣ層から出土した有茎鏃である。長さ4.0cm、最大幅1.7cm、厚さ0.7cm、重量3.9gをはかる大型のものである。基部がほぼ長方形状になり裏面に主要剥離面を残す。33はⅠ層(表土)のもので長さ2.7cm、最大幅1.4cm、厚さ0.2cm、重量0.6gをはかる石鏃である。基部が深く抉入する双脚状の形態で両面ともに丁寧な剥離が施されている。34はⅣ区のⅢ層から出土した円形を呈する搔器類である。上端部に切折面を残し側縁から下端部まで剥離し裏面は一方の側縁部の一部にのみ剥離を施し大半は一次剥離面である。36はⅣ区のⅢ層から出土した長方形の剥片を使用した削搔器類である。両側縁部に両面から剥離を施している。35はⅣ区の第35号土壌跡から出土した磨製石斧の破損品である。基部方向からの強い打撃により破損したものであると思われる。

石鏃

搔器

磨製石斧

第16図37～42は礫石器である。37は裏面に大きく自然面を残す打製石斧である。Ⅱ区のⅢ層から出土したものである。38はⅡ区のⅣ層上面から出土した敲石である。敲打による剥離がみられる。39～42はⅣ区のⅢ層から出土したものである。39～41はいずれも長だ円形礫を利用した敲打磨石類で41の側面には調整磨面がみられる。42は長だ円形礫を利用した敲石である。

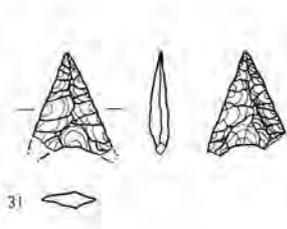
打製石斧

敲石

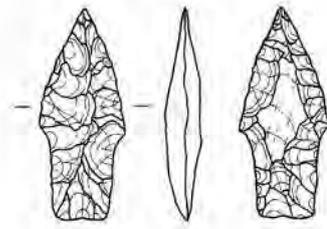
敲打磨石類



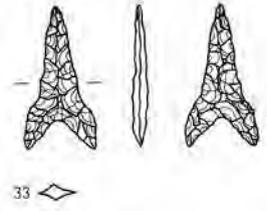
第14図 出土遺物・土器



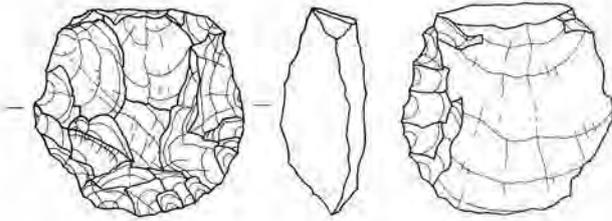
31



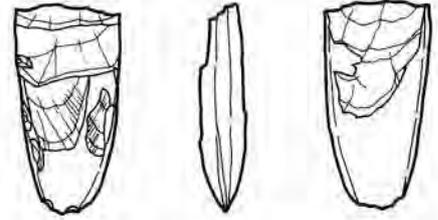
32



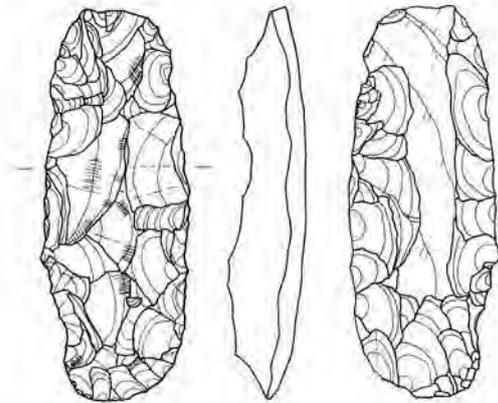
33



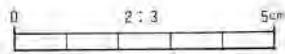
34



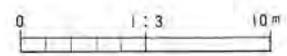
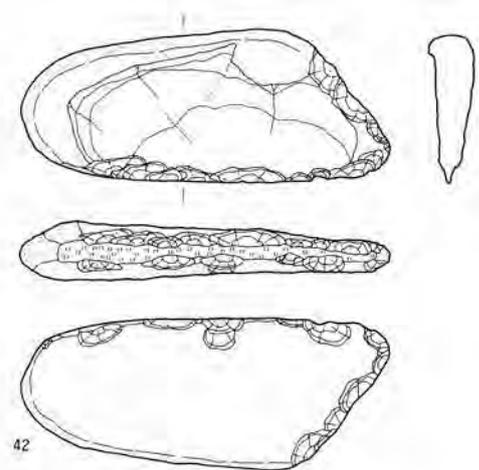
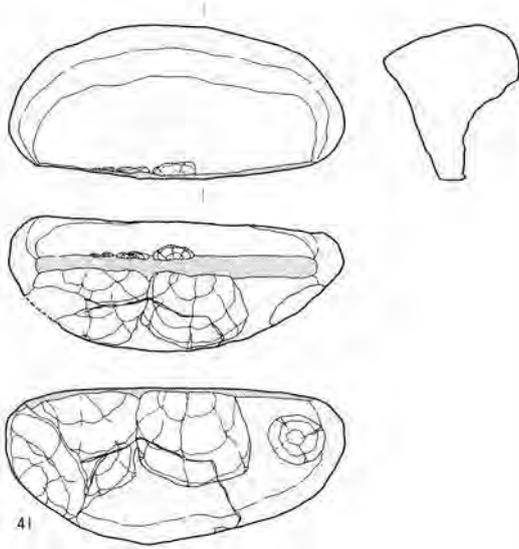
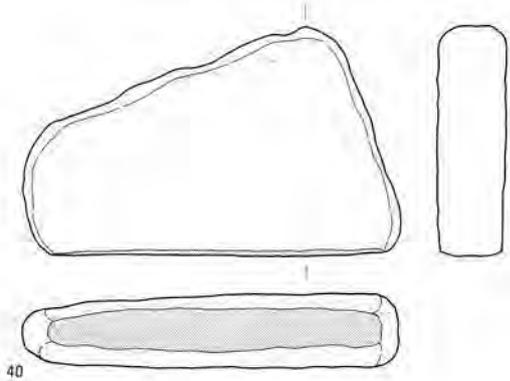
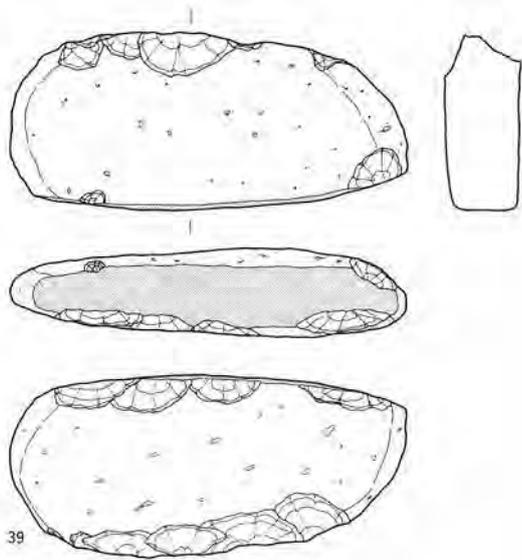
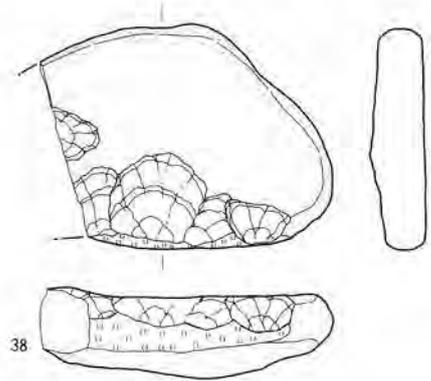
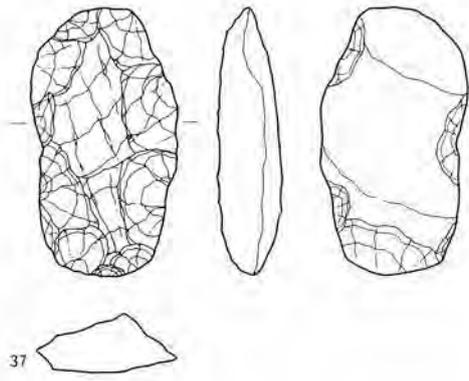
35



36



第15図 出土遺物・石器①



第16図 出土遺物・石器②

IV 調査のまとめ

今回の赤前I牛子沢遺跡の発掘調査により検出した遺構・遺物は、以上のとおりであった。以下、若干の考察を加え調査のまとめとする。

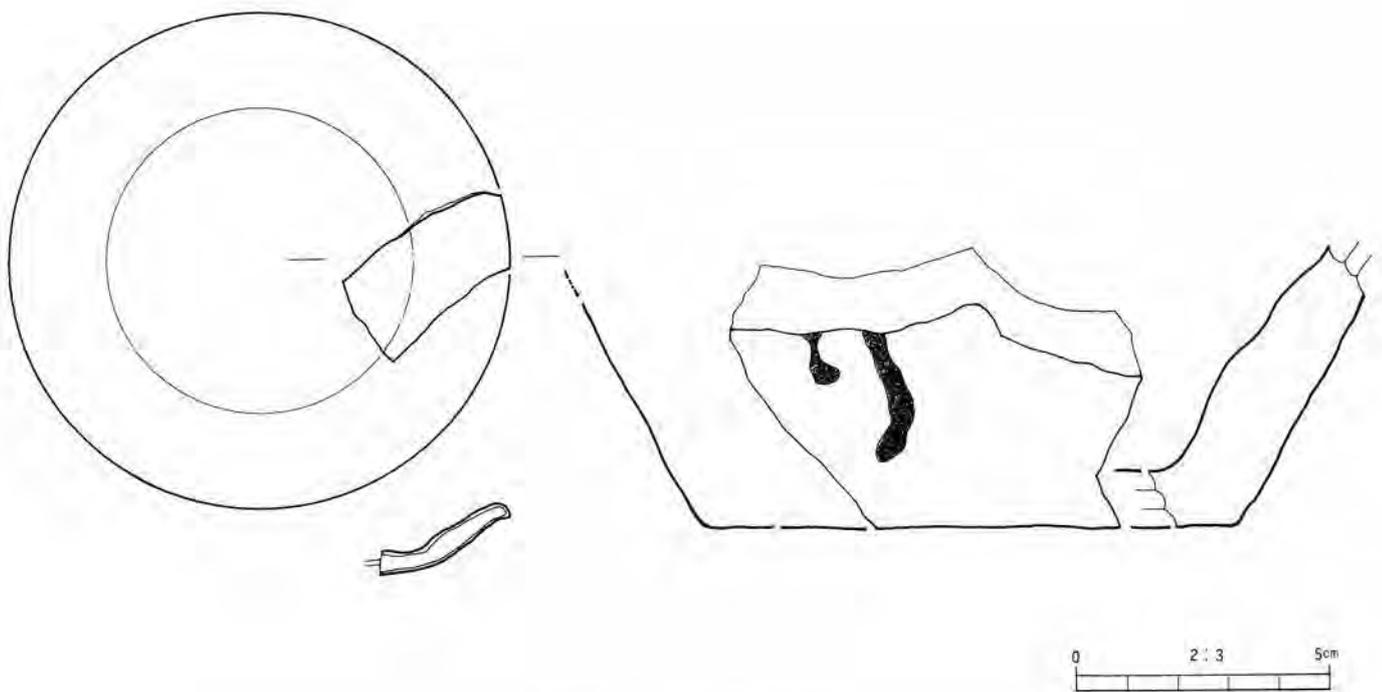
1 遺構について

今回の調査では、35基の土壇跡を検出したが中には土壇というよりも柱穴状の小ピットも含まれている。

土壇跡は、規模も1m未満で浅い皿状の断面を呈するものが大半で、しかも遺物も皆無に近い状態でその性格、用途などについては全く不明といわざるをえない。その中にあって本文中でも何度も記しているとおり、土壇跡とそこに含まれている礫が伴うものなのかが問題となってくる。一応、本文中においては否定的に記したが、宮古市内の高根遺跡で縄文時代中期の集礫を伴う土壇跡を検出しており(『高根 89』)、それらと今回検出した土壇跡は形態的にも礫の在り方などが非常に類似しており一概に土壇跡に伴わないと否定しきれない。確かに第1号、3号、6号、9号、12号、13号、17号、18号、34号土壇跡などは、高根遺跡のものと類似する。このようなことからすれば、当遺跡の少なくとも前記した土壇跡については、高根遺跡のような墓壇跡の可能性があると考えられる。

『高根 89』

次に遺跡全体からみると今回の調査地点は、遺跡の南端部のしかも津軽石川の氾濫平野に隣接したところである。今回の調査では竪穴住居跡などの遺構は検出しなかったが、更に山地に近い東側に存在するものと考えられる。



第17図 出土遺物・陶磁器

2 遺物について

縄文時代から中・近世までの遺物を出土しているが、全体量は少ない。

① 縄文時代の土器

大きく分けて前期と中期の土器が出土している。

縄文時代前期の土器（第14図12、18、25～28）

前期初頭

胎土に植物繊維を含むもの（12、18、26）と含まないもの（25、27、28）があり、前期の初頭から前半に所属するものと思われる。出土量が少なく詳細は不明である。

縄文時代中期の土器（第14図1～11、13～17、19～24、29）

大木8b式

大半が隆沈線により文様を施文するもので、中期の大木8式に所属するものが主体である。口縁部が内湾するもの、内傾する深鉢形土器と推測されるものばかりである。やはり、出土量が少なく全体を把握するまでには至らなかった。

② 縄文時代の石器（第15図～16図）

刮片石器、礫石器が出土しているが、出土層位などから中期に伴うものと考えられるが、これも出土量がわずかで詳細は不明である。

③ 陶磁器類（中表紙カラー図版及び第17図1、2）

同安窯産

遺構外の第IV区III層から2点出土しているが、第17図1は青磁の皿の小破片で口縁部が外反する。文様はなく胎土は灰色を呈する。同安窯産と考えられる。2は陶器の底部片で一部に釉薬がみられる。胎土は灰色を呈し非常に緻密で焼成状態もよくしまっている。産地は明確でないが渥美産？と思われる。この2点はほぼ同一地点から出土しているもので、年代観も12世紀末から13世紀代のものと考えられるものである。(註)

渥美産？

3 おわりに

今回の調査で特に注目されるのは、青磁片と陶器片であるが宮古市内でもわずかであるが近年の調査により中世に伴う陶磁器類が磯鷓山遺跡、熊野町遺跡、弘川I遺跡、花原市遺跡などで出土している。今回の当遺跡のものは、序文にも記したとおり背後に位置する赤前館跡との関連性が十分に考えられるものである。

(註) (財)岩手県埋蔵文化財センターの高橋與右衛門氏並びに平泉町教育委員会の八重慥忠郎氏のご教授をいただいた。

写 真 图 版



赤前 I 牛子沢遺跡景観



同上 調査区景観

第2図版



調査区（I区）の土坑跡



調査区（II区）の礎の状況



調査区（Ⅳ区南壁）断面



調査区Ⅳ区内第35号土壤跡断面

第4図版



調査区Ⅳ区の集礫の状況①



同上②



調査区Ⅳ区の集礫断面①

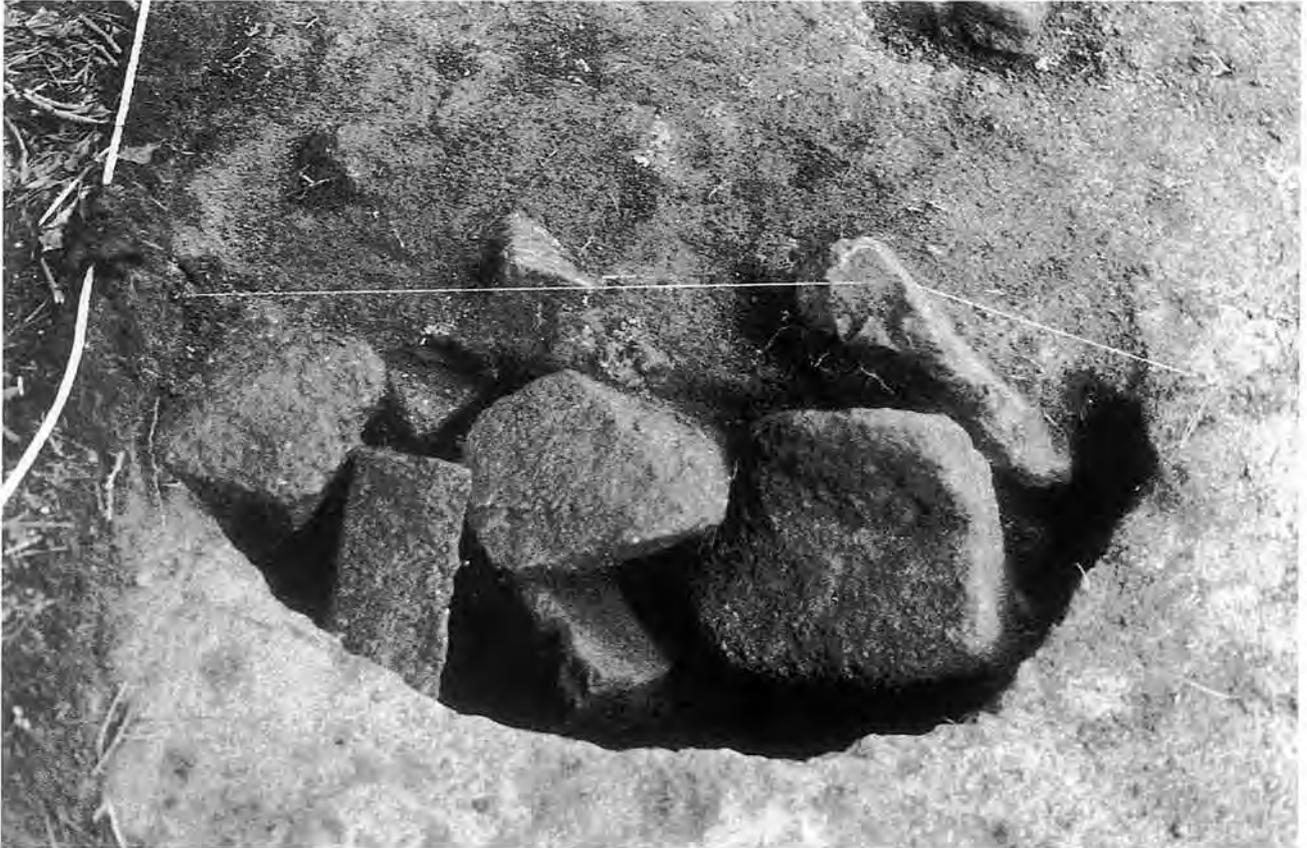


同上②

第6図版



第18号土壇跡



第13号土壇跡



第9号土坑跡



第27号土坑跡

第8図版



第1号土壌跡



調査区II区深掘トレンチ

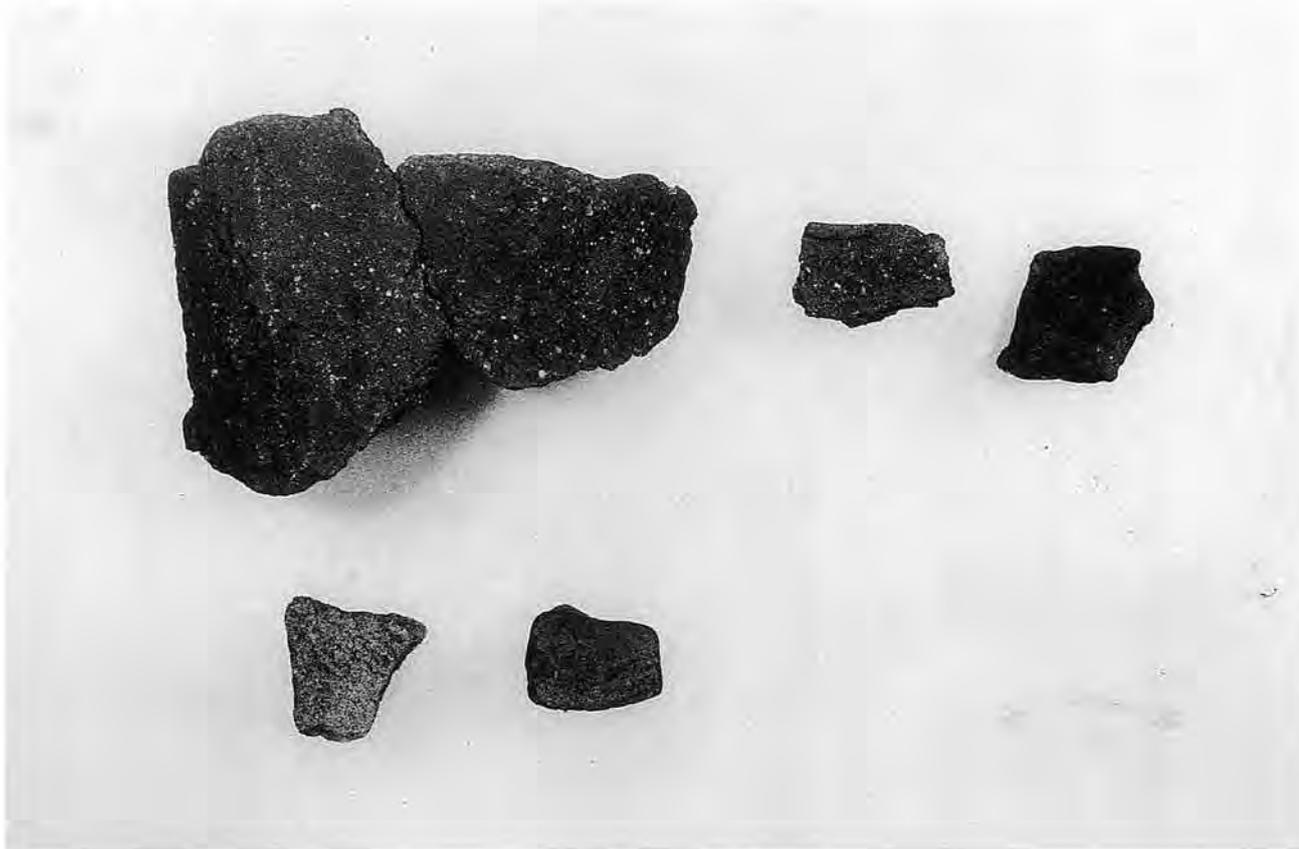


出土遺物・土器①

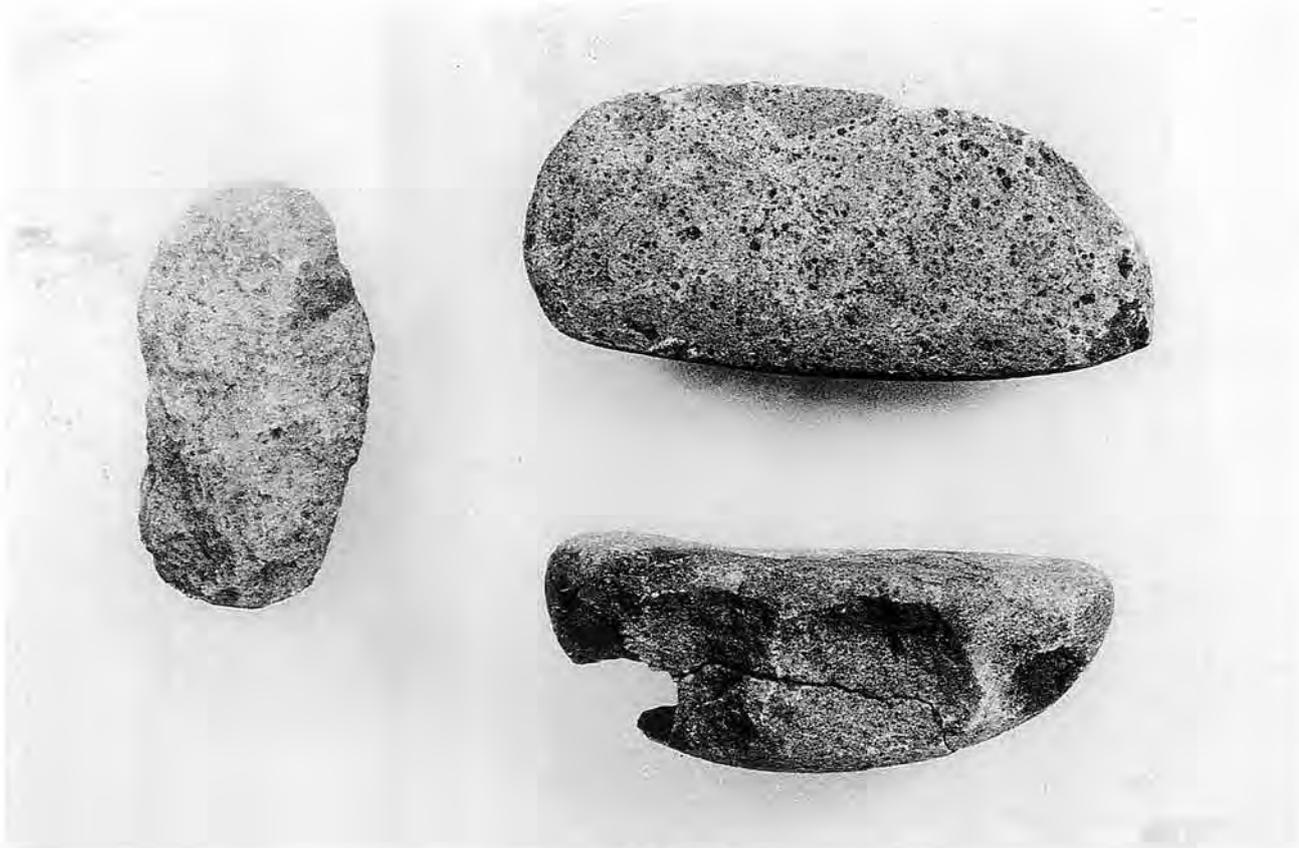


同上②

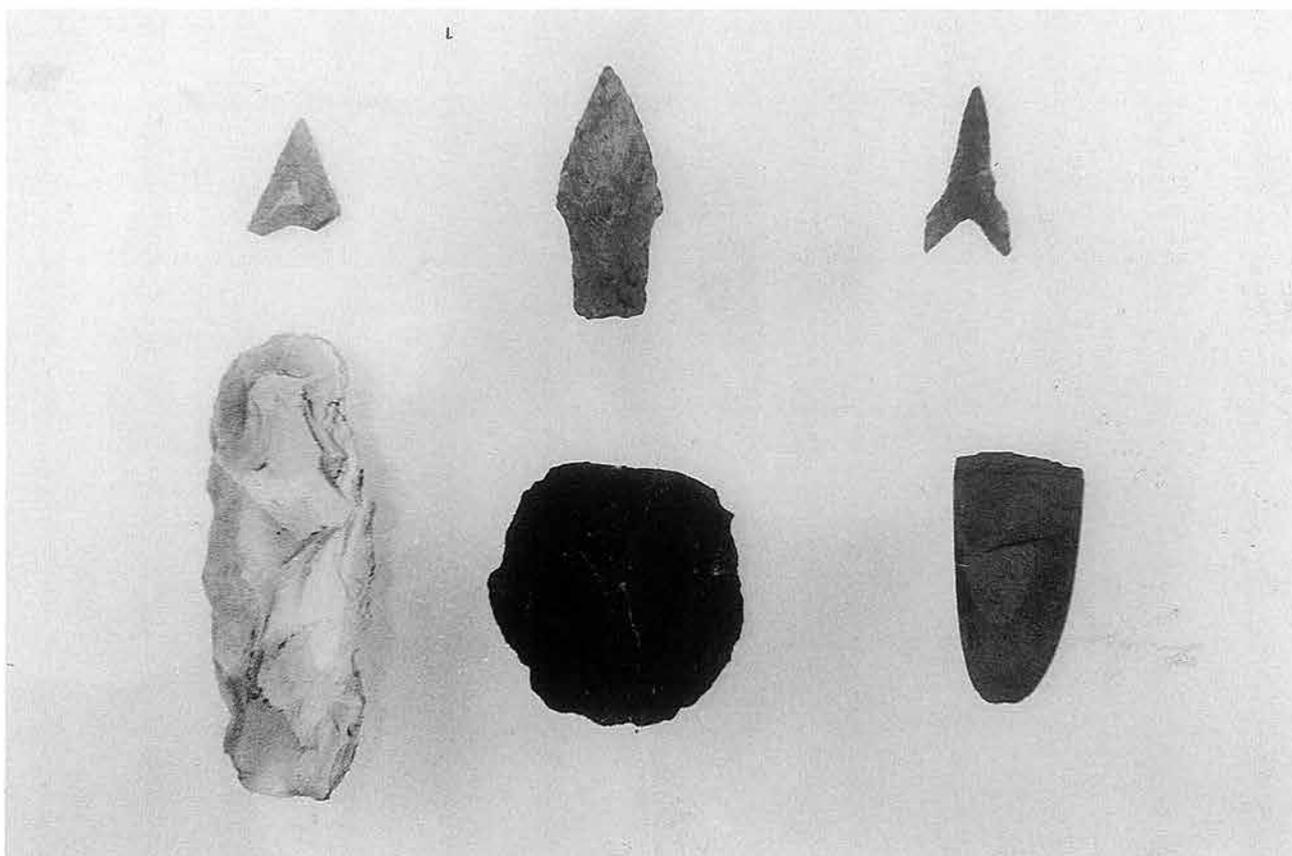
第10図版



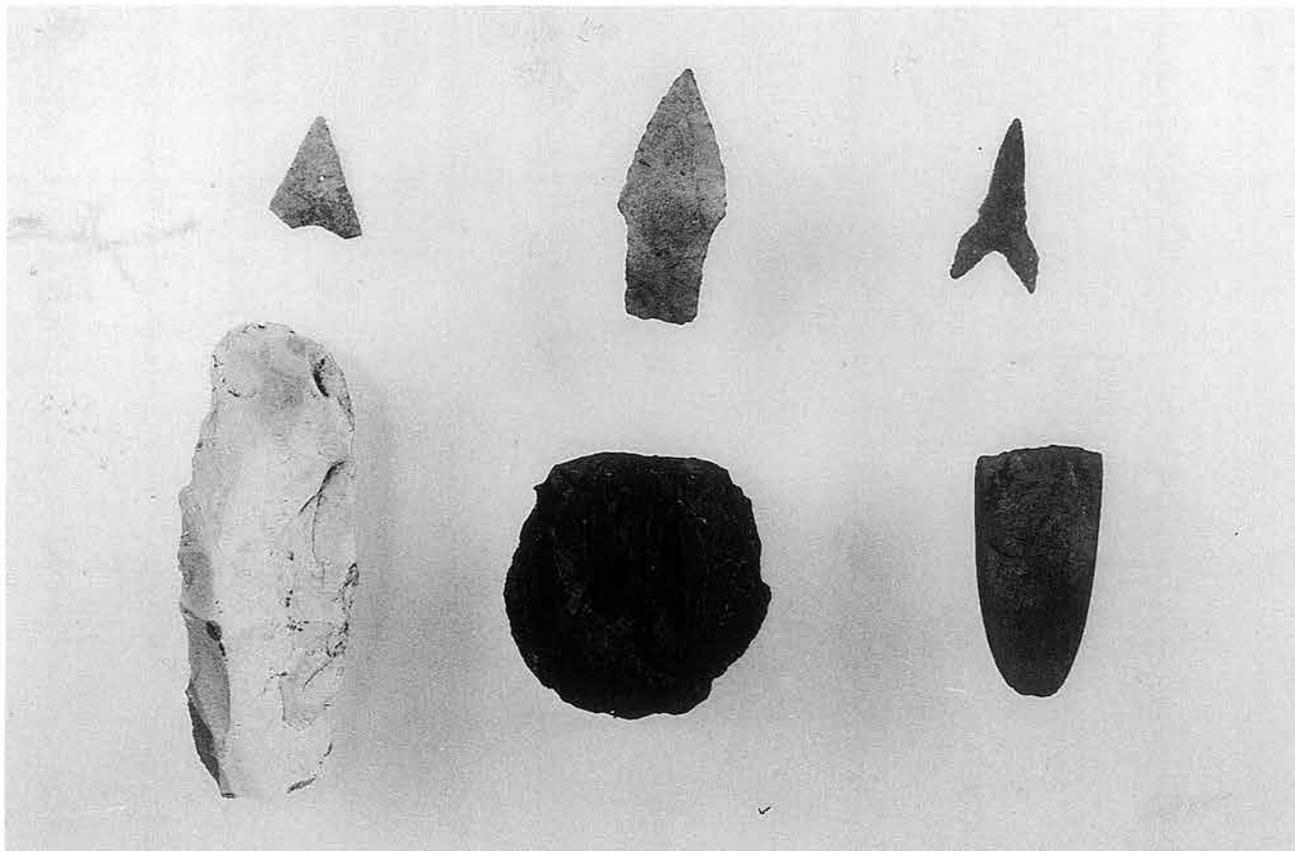
出土遺物・土器③



出土遺物・石器（第16図）



出土遺物・石器（第15図）

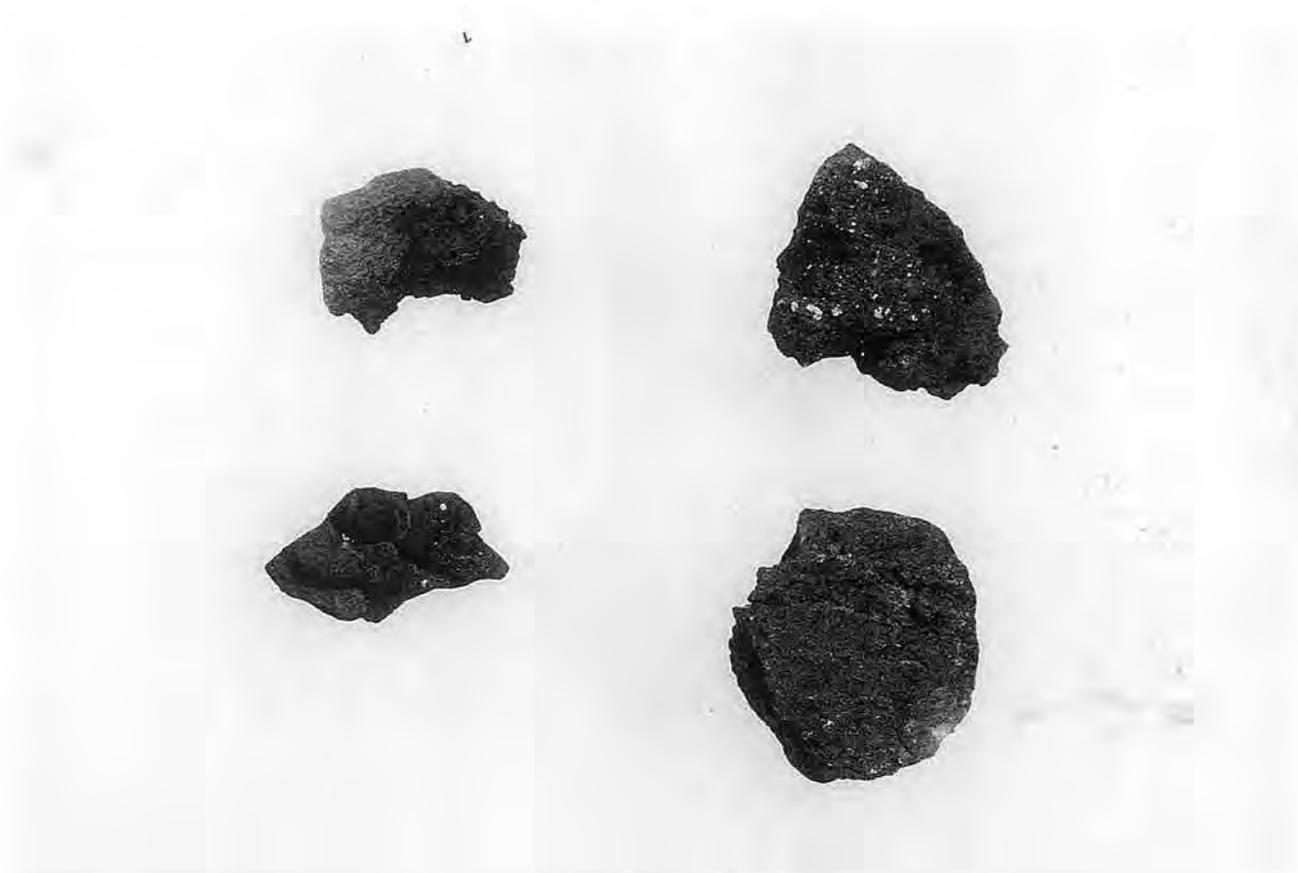


同上（裏面）

第12図版



出土遺物・石器（第16図）



出土遺物（鉄滓）

宮古市埋蔵文化財調査報告書42

赤前 I 牛子沢遺跡

—平成4年度発掘調査報告書—

1995.2

発行 岩手県宮古市教育委員会
岩手県宮古市新川町2番1号

印刷 花坂印刷工業株式会社
岩手県宮古市新川町1-2